2021 PROJECT C

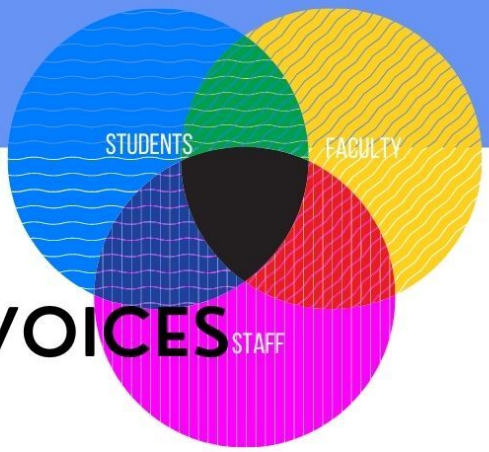
Division of Student Affairs

Student Voices Project

学生の声プロジェクト

Proposal to the University

大学への提言書



MAKE STUDENT VOICES HEARD!

学生の声をきくシステム構築のためのプロジェクト
学生一同

ALL STUDENTS IN THE PROJECT FOR BUILDING A SYSTEM TO LISTEN TO STUDENTS' VOICES

代表挨拶

APU Student Voices Project は、大学で初めて実施されたプロジェクトであり、学生の声を前面に押し出し、APU の教職員と協力して、調和のとれた学習環境を整えることを目的としてこれまで活動してきました。この 2 年間、コロナ禍の中で、学生や教職員は様々な場面で普段とは異なる状況への適応を求められてきました。それらの経験が、このプロジェクトの必要性をさらに強めたと考えています。大学はオンライン化を進め、学生の学習の質に影響を与えないよう、新たなフレームワークやシステムの構築を余儀なくされました。そのため、APU 事務局と学生との架け橋となるような改善策を講じるためにも、今回のプロジェクトや、その中で実施した学生へのアンケートは有意義であったと考えています。

私たち学生メンバーは、教職員の支援のもと、学生の声を反映させた提言を行うという重要な役割を担っています。「大いなる力には大いなる責任が伴う」ということわざがありますが、私たちメンバーは、そのような大役を担ったことを自覚しています。それゆえ、私たちは細心の注意を払って提言書を作成しました。数多くのミーティング、データ分析、修正、フォローアップアンケートなどを経て、「学生の生の声」を反映した、学生の不安や希望に応える提言書を目指してきました。これらの提言がコロナ禍の状況にも適応し、大学をより良い方向へ導くものになることを願っています。完全なオンラインでのプロジェクト実施にもかかわらず、学生から多くの回答が寄せられたため実現することができました。学生の皆さんからは、学業や就職活動、メンタルヘルス、各種制度などについて、多くの方が意見を寄せてくださいました。多くの学生、特に 1、2 年生にとっては、大学生活はオンラインのみの体験となっているのが現状ですが、限られた時間の中での体験だからこそ、視点や経験の違いが浮き彫りになることもあります。私たちは、Covid-19 のパンデミックが何を意味するのか、そしてそれが学習や大学生活をどのように変えたのかを考えなければなりません。その上で、与えられたリソースをいかに活用するかが重要となります。そこで、本提言では、学業や大学のシステムだけでなく、学生支援、メンタルヘルス、学生生活にも焦点を当て、総合的な改善策を提案しています。アンケートの質問から、ここに掲載されている最終的な提言まで、最善の方法を反映するために、綿密に計画され、議論されました。それゆえ、ここに掲載された提言は重要であり、より調和のとれた学生生活を築き、大学のシステムを改善するためのきっかけとなることを期待しています。私たちメンバーにとって、このような大規模なプロジェクトをオンラインで期限内に行うことは、コンセプト全体に不慣れで、他の活動もある中で非常に困難なことでした。しかし、そのような状況にもかかわらず、私たちはお互いに協力し、サポートすることを学びました。提言書の完成を通して、私たちはチームワーク、協力、そしてコミュニケーションの重要性を実感しました。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただいた学生の皆様に感謝の気持ちをお伝えします。このプロジェクトとこの提言書は、皆さんの回答なしには実現できませんでした。声を上げてくださったおかげで、私たちは少しずつ大学の改善に貢献することができました。そして、これからもご協力をお願いいたします。また、プロジェクトの各段階で私たちを支援し、助けてくださった APU の教職員の方々に感謝します。お忙しい中、私たち学生がコンセンサスを得られるよう支援してくださったことは、とても貴重なことでした。

時間をかけて草稿を読んでいただいた方、私たちと会話していただいた方、懇談会の中で提言を現実のものにする機会を与えていただいた方、ならびに、学内各部署の関係者の皆様に感謝いたします。

皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

学生の声プロジェクト 2021 代表
Subah Anbar ALI（APS 7 セメスター）
坂本涼輔（APS 4 セメスター）

目次

代表挨拶 1
はじめに 3
■ 本プロジェクトの目的 3
■ 本プロジェクトの調査概要 3
■ 大学への提言の要約 6

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.) 9
提言 Ⅰ-1 優先登録制度 9
提言 Ⅰ-2 学習支援（授業関連＆その他） 15
提言 Ⅰ-3 グループワーク 19
提言 Ⅰ-4 成績評価方法 23
提言 Ⅰ-5 授業の学問的・学術的な水準(1) 27
提言 Ⅰ-6 授業の学問的・学術的な水準(2) 30
提言 Ⅰ-7 時間割 33

II. Learning Support Services 37
提言 Ⅱ-1 IT サポートサービス 37
提言 Ⅱ-2 オンライン授業 42
提言 Ⅱ-3 APU での学習支援サービス 45

III. Facility (Cafeteria) 49
提言 Ⅲ-1 カフェテリア 49

IV. International and Educational Exchange 52
提言 Ⅳ-1 国際交流 52
提言 Ⅳ-2 国内交流 57

V. Counseling and Student Services 61
提言 Ⅴ-1 メンタルヘルスサービス 61

2021 年度 学生スタッフ 66

はじめに

■ 本プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、以下 3 つの目的のもと、学生の声を大学に届け、学生・教員・職員が協働しながら、よりよい大学づくりを目指す。

(1) 大学として学生の声を聞ききること、それを大学づくりに反映させるしくみをつくること

(2) 学生の自律的な学びを促進させ、学生が自らの成長を実感できるようにすること（主体的に考え、他の学生と議論し、変革のためのアクションを起こす）

(3) 学生を含む APU を構成するすべての組織・メンバーが活気ある大学づくりを持続して行うこと

【プロジェクト期間】2021 年 6 月～2022 年 2 月

【ウェブサイト】https://secure.apu.ac.jp/secure_students/studentsupport/page/content0346.html/

■ 本プロジェクトの調査概要

- **主体**：学生部主管の C 型プロジェクト制度による支援のもと、学生部が 2021 年 6 月に募集した学生スタッフ 16 名を中心として全学部生を対象とするアンケート調査を実施し、この回答データにもとづいて学生スタッフが大学に対する提言書をまとめた。さらに、スタッフ以外の学生を主な対象とした追加アンケートを実施し、各提言に対する賛同度とその理由を調査した。

＜学生スタッフ推進体制＞　※各 Position は国内生／国際生の混合メンバー1～3 名で構成される

Position	Duties
Project Leaders	プロジェクトの取り締まり（進捗管理等）、会議の司会進行
A)Data Collector	アンケート設計、作成、保守等
B)Analyst	（主にアンケートの）データを集計分析し、結果をグラフでまとめる
C)Proposal Editor/Writer	提言書の書式と体裁の作成、編集作業を行う
D)Translator	提言書の文章と会議における会話を日英両言語に翻訳する
E)Result Editor/Writer	本プロジェクトの実績報告書の文案を作成、編集する
F)Web designer/Manager	本プロジェクトにかかわる情報（会議の議事、各種データ、提言書、実績報告書等）を Web コンテンツとして編集、デザイン、公開する

- **アンケート対象**：全学部生
- **アンケート実施方法**：LimeSurvey（Campus Terminal での案内掲載および全学生への e メール通知）
- **アンケート実施期間**：ｉ）2021 年 7 月 2 日(金) － 7 月 15 日（木）
  ii）2021 年 10 月 29 日（金）－ 11 月 7 日（日）［追加アンケート］
- **アンケート分析方法**：学生スタッフが上記の役職と（目次の Ⅰ～Ⅴにあたる）提言テーマ別のワーキンググループを分担して分析した。とくに、Analyst が定量データの属性別（学部や回生ごとなどの基本統計）集計を行い、各テーマワーキンググループが各担当テーマに関する定性データを集約した。
- **アンケートｉ)の概要**:
  - 設問構成

    学生部による 2020 年度（本プロジェクト始動以前）パイロット調査で既に得られていた一部の学生の意見を踏まえ、学生部と Data Collector が設問内容と項目を設計した。より具体的には、下記 Q1-Q9 それぞれに関して出された一部の学生の意見に対して、回答者が自らの賛同度を 5 尺度（「強く賛同する」「賛同する」「どちらともいえない」「賛同しない」「まったく賛同しない」）から

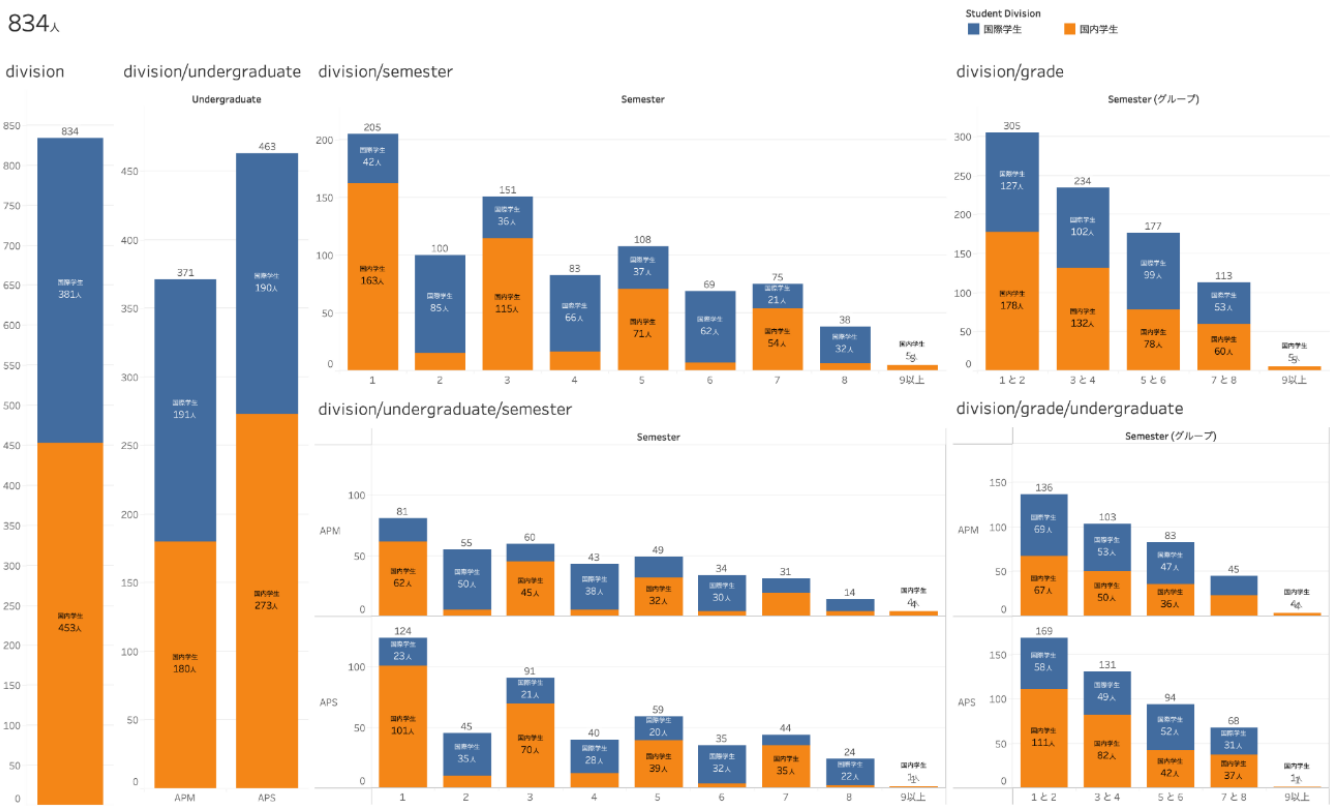
選択する方式（必須回答）とした。さらに、「上記の意見について、あなたの考え（たとえば、補足したいこと、より具体的な状況の説明、具体的な改善案、など）があれば書いてください。」という、自由記述欄（任意回答）を設けた。また、回答者の属性データ（学籍番号・言語基準・国際生／国内生・学部・セメスター）を得た。

- Q1:学習サポートについて
- Q2:学びの深まりについて
- Q3:情報伝達と情報利用のしやすさについて
- Q4:オンライン授業の形態について
- Q5:その他：授業およびカリキュラム関連について
- Q6:カフェテリアについて
- Q7:学生間交流について
- Q8:学生支援（安心・安全）カウンセリングサポートについて
- Q9:上記 Q1～Q8 以外の大学に届けたい声について

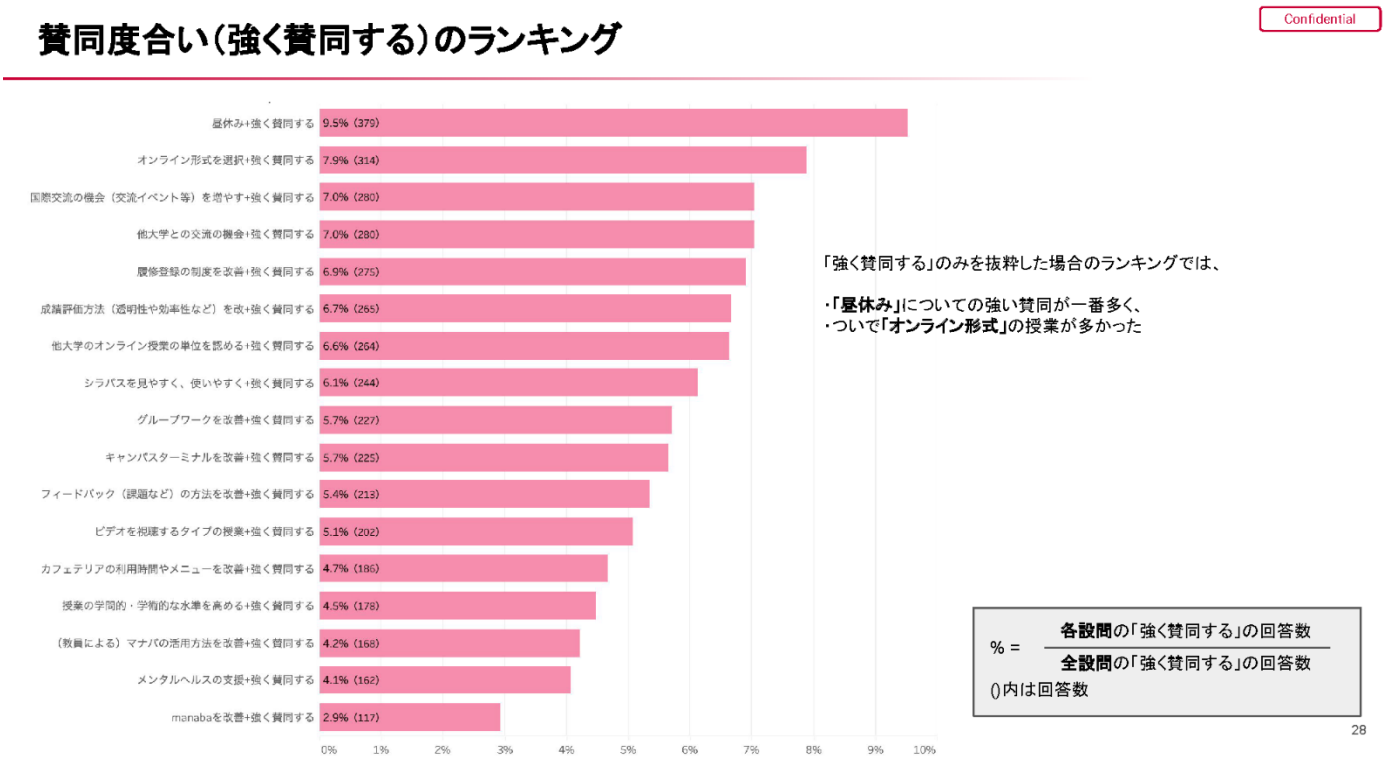
➢ 得られた回答データの主な属性と傾向

有効回答者は 2021 年 7 月時点の全学部生 5438 人のうち 834 人で、回答率は 15.3%であった。国際／国内別では、国際学生 381 人（46%）、国内学生 453 人（54%）で、国際／国内比率については概ね本学の在籍状況に近く、学部別では APS 463 人（56%）、APM 371 人（44%）とやや APS の回答者が多い結果となった。回生別でみると、回生が上がるごとに回答者が減少している。

［図 1］有効回答者 834 人（2 回以上回答した者は最新日時の回答のみを採用し、大学院生を無効とした）の属性（国際生／国内生・学部・回生）ごとの集計（縦軸「回答者数」、横軸の数「回生」）



［図 2］学生の声の全体的な傾向（属性（学部・回生）ごとの傾向等は紙幅の都合で略）



- アンケートⅱ）［追加アンケート］の概要：
  - 設問構成

    本アンケートでは、学生スタッフ以外の学生を主対象とし、学生スタッフが掲げた各提言に対する、「賛同」「反対」の選択欄（必須回答）、および、その理由を書くための自由記述欄（任意回答）を設けた（設計と作成は Data Collector による）。実施目的は、学生スタッフの掲げた提言が全学生の声を代表しているかどうかを客観評価することである。

  - 得られた回答データについて

    本追調査では、属性データを取得していない。回答者は 93 人で、7 月実施時の数を大きく下回った。次頁以降の各提言文書内に掲載された円グラフ（「賛成」「反対」の割合集計）等を参照する際には全数が 93 人であることに注意されたい（とくに、この追加アンケートが全学生の声を代表する役割を果たせたかどうかは不明である）。提言に関する補足資料として、各提言文書内の末尾に回答データの集約結果を掲載した。

はじめに

■ 大学への提言の要約

※「改善要望率」は各提言題目に対する（アンケートｉ)の回答中の）「強く賛同する」割合と「賛同する」割合の合計、[**%]は提言 a, b,..に対する（アンケートⅱ）の高々93 件の回答中の）「賛同」の割合

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

提言 Ⅰ-1　優先登録制度　（改善要望率：67%）

履修登録方法と学習機会が学生に対し公正に与えられていないことについて

a. 優先登録システムを GPA 基準から学年(セメスター)基準に変更する[59%]

b. より多くのクラスを提供する（クラス増）[91%]

c. 抽選による登録制度の実現[34%]

d. 英語基準学生に対して反対言語基準科目の履修条件を日本語基準学生と同等に設ける[67%]

提言 Ⅰ-2　学習支援（授業関連＆その他）　（改善要望率：アンケートｉ）でのデータは無し）

APU での学習・生活全般の枠組みの中で学生の声が十分に反映されていないこと（大学側の学生対応が遅い、コミュニケーションが円滑でない、国際学生へのサポート不足など）について

a. 大学と学生との橋渡し役として、現役学生と卒業生で構成される学生会と同等の仕組みを構築する[94%]

提言 Ⅰ-3　グループワーク　（改善要望率：66%）

グループワークにおける、言語の壁、オンラインでの実施、フリーライダー対策、評価方法について

a. 言語の壁を減らす工夫をする（心得セッションの実施、個人課題とグループワークの組み合わせ）[72%]

b. グループワークを行う全ての講義で、相互評価制度を導入する[74%]

提言 Ⅰ-4　成績評価方法　（改善要望率：69%）

学習意欲の向上や学生自身による自己分析に繋がりにくい現在の成績評価制度とそのプロセスについて

a. 成績の透明性を高める[97%]

b. 成績問い合わせへの柔軟な対応をする（成績評価変更後、すみやかに GPA に反映させ、履修登録に不利益とならないようにする）[99%]

提言 Ⅰ-5　授業の学問的・学術的な水準(1)　（改善要望率：68%）

教え方（スライドを読むだけ、一方的な講義など）、専門科目不足について（担当部局へのヒヤリング有）

a. 講義の質向上のため、教員がシラバス作成の過程で学生の意見聴取を行う。実践的な学習の優先[78%]

b. 専門科目や主要科目の受講機会を増やすため、専門科目を担当できる教員を増やす[86%]

c. 教員の指導方法を改善するため、特別・追加研修を行う[85%]

提言 Ⅰ-6　授業の学問的・学術的な水準(2)　（改善要望率：68%）

一定の学生が専門性の深化や高度化、新しい学びに前向きであり、低回生でも 200 番台、300 番台の科目を履修したいと考えていること（及び担当部局へのヒヤリング）を踏まえて

a. 授業評価アンケートの自由記述蘭・現在非表示となっている 6 項目の結果を公開する

提言 Ⅰ-7　時間割　（「昼休みがほしい」への改善要望率：72%）

低回生の授業数の多さ、休み時間不足による集中力の欠如や健康への悪影響、課外活動時間の確保、コロナ禍での安全な食事、に関する意見（及び担当部局へのヒヤリング）を踏まえて

a. 空き教室を利用し、ハウスコープのような売店および食事をするためのスペースをいくつか設ける[85%]

b. 先生方に授業方法を工夫していただく[82%]

II. Learning Support Services

提言 Ⅱ-1　IT サポートサービス　（改善要望率：下表参照）

manaba（教員による利用法など）、キャンパス・ターミナル（必要な情報がわかりにくいなど）、シラバス（検索しづらい、更新が遅いなど）について

	manaba	キャンパス・ターミナル	シラバス
改善要望率	40%	64%	73%
a. IT サービスの修正	・終了したコースの削除 ・教員、TA の連絡先表示	・UI 改善 ・再ログインまでの時間延長 ・取消メール扱い変更	・検索方法改善 ・更新頻度をあげる
b. IT サービスの機能追加	・期限、締切り通知 ・講義のカテゴライズ（フォルダ設定）	・情報のカテゴライズ ・ピンやお気に入り機能の追加 ・必要な情報のみ通知／不要メール削除の機能	
c. IT サービスの利用統一	・終了した講義の取扱い ・課題提出方法の統一		

提言 Ⅱ-2　オンライン授業　（「オンライン授業の継続」への改善要望率：76%）

個々の学生の環境や状況（就職活動、体調不良、集中力維持、活気など）に応じて、学ぶ場所や方法の選択肢を大学が増やすことでより多くの人に学ぶ機会を提供でき、学生も効率的に学べることから

a. オンライン授業を選択できるようにする

b. オンデマンド授業を取り入れる

提言 Ⅱ-3　APU での学習支援サービス　（既存サービスの学生利用頻度：提言本文を参照のこと）

学生にとって、既存サービスを利活用するための体系的かつ一貫したアプローチができていないこと、利用の動機不足、サービスが統一されていないこと、について

a. 学習支援サービスと学生ソーシャルメディア・ユニット(SMU)とのコラボレーション[87%]

b. アクセス方法とサービスの内容を周知するウェブページの作成[94%]

c. 教職員と協力した学習支援サービスの利用奨励[95%]

III. Facility (Cafeteria)

提言 Ⅲ-1　カフェテリア　（改善要望率：54%）

「学生が健康的な食事を取れているか」という包括的な視点（及び担当部局へのヒヤリング）から

a. カフェテリアやアドミニストレーション・オフィスは、APU CO-OP のショップの取り組み例を参考に、学生のニーズを聞き入れる仕組みを設け、得られた意見やそれに対する回答を公開する

b. APU CO-OP は、学生委員と協働して、上記提言 a の実施に際し得られた学生の意見を集約し、運営指針を策定する。自己の取り組みについての広報を強化し、既存の媒体（チラシ・生協ウェブサイトなど）に加え、キャンパス・ターミナル等の利用を通じて学生への周知を図る

IV. International and Educational Exchange

提言 Ⅳ-1　国際交流　（改善要望率：72%）

コロナ禍の影響による交流機会の減少（関連プログラムの中止など）、留学奨学金などの支援不足、留学や国際交流に関する情報の周知不足について

a. 言語パートナーシステムの創設（オリエンテーションの週に、各学生が 1 人または 2 人の国内・国際学生

を紹介するプログラム）［92%］

b. クラブ・サークル、学生の活動の可視化とアクセシビリティの向上［91%］

c. 国際交流プログラムの説明会の工夫、奨学金の説明とのリンク［94%］

提言 Ⅳ-2　国内交流　（改善要望率：74%）

国内大学との学習・課外活動における学生間交流やコロナ禍で別府地域を含めた交流の不足から

a. ビーチの美化と BBQ［下記 b.と合わせて 92%］

b. ポーラープランジ［上記 a.と合わせて 92%］

V. Counseling and Student Services

提言 Ⅴ-1　メンタルヘルスサービス　（改善要望率：50%）

学生とカウンセラーとの間の言葉・文化の壁、サービスの提供と施設が不十分なこと、メンタルヘルスへの意識が学内で低いこと、国際学生から改善要望が強いこと、及び担当部局へのヒヤリングをふまえて

a. 国際的なメンタルヘルス機関との連携［96%］

b. カウンセリングサービスへのアクセス向上（ＡＰハウスとの連携）［98%］

c. MeWe（学生団体）との協力［95%］

d. 学生自身によるメンタルヘルスチェック（学生のメンタルヘルスへの意識向上）［96%］

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

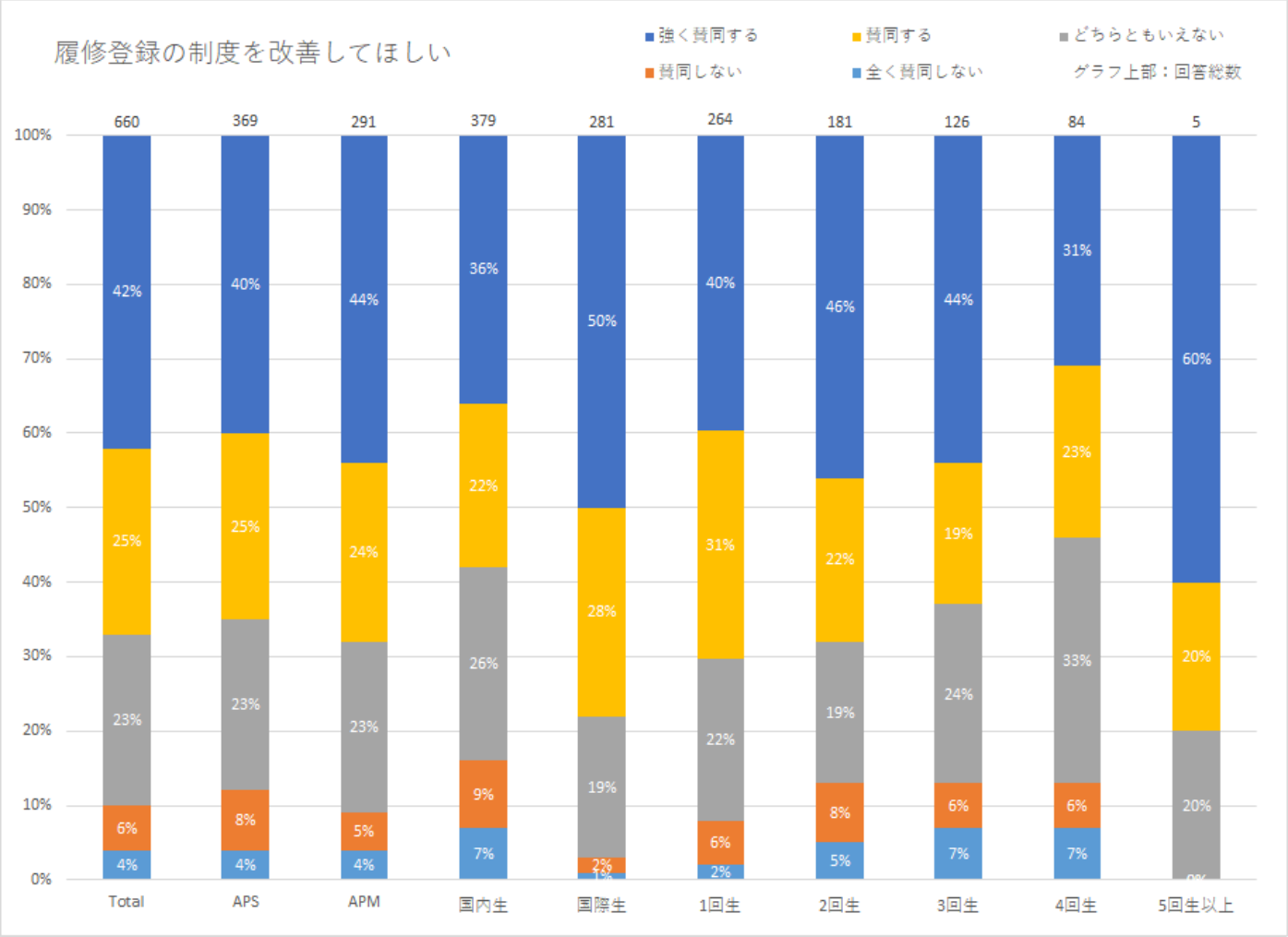
提言　I -1　優先登録制度

■ 問題点

1. システムとしてのコース登録方法
2. 単位取得の要件

■ データと現状分析

［図 1］「優先登録の制度を改善してほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 67%である。また、「賛同する」「強く賛同する」に対し、回生別に賛同率をみると、5 回生以上（ただし回答者は 5 人）が 80%と一番多い。次いで、1 回生が 71%、2 回生が 68%、3 回生が 63%、4 回生が 54%である。

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

［図 2］2021 年版 APU 学生便覧によるプライオリティー制度の現在の仕組みとスケジュール

Period	Student Group		Registration Begins		Registration Ends	
			Date	Time	Date	Time
Registration Period A Cumulative GPA or Semester GPA 1st Priority: 3.00 or higher 2nd Priority: 2.50 or higher	APS	1st Priority	Tue, March 23	9:30	Wed, March 24	12:00
		2nd Priority		12:30		
		Regular		15:30		
	APM	1st Priority	Thu, March 25	9:30	Fri, March 26	12:00
		2nd Priority		12:30		
		Regular		15:30		
Registration Period B	All Students	New or Reinstated	Wed, April 7	10:00	Thu, April 8	12:00
		Current Students		15:00		
Correction Period 1	All Students		Mon, April 19	10:00	Tue, April 20	10:00
Correction Period 2	All Students		Mon, June 14	10:00	Tue, June 15	10:00

学生の意見　(回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語])

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 学習よりも成績を重視する傾向がある
  - もっと選択肢があったほうがいいと思う
  - 選択肢が少ない
  - GPA の差による単位取得の難易度の違いは、授業の質よりも大きな問題である
  - 反応速度やインターネット接続の速さで登録が決まると、一部の学生にとって不利益になることもある

- 「どちらともいえない」
  - 優先 1 の GPA を 3.0 ではなく 3.5 に格上げすること
  - このテーマについては、とくに意見はない
  - 現在の制度でもよいと思うが、同時に常に改善が必要だと思う

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 基準はすでに十分に高いと思う
  - 十分に良いと感じている
  - 現在のレベルで満足している
  - 現在の制度のままでよいと思う
  - もっと厳しくすべきだと思う

■ 提言

a. 優先システムを GPA から学年ベースに置き換える

アメリカの大学であるオレゴン州立大学とボストンカレッジの制度においては、学年が基準とされている。この制度では、卒業を 1〜2 年後に控えた学生に、大学卒業に不可欠な授業を受ける機会を与えてい

る。この制度の目的は、卒業を 1〜2 年後に控え、ある科目を履修しなければならないのにその機会がないという特殊な状況に置かれている学生のストレスを軽減することにある。

この制度は、裏の手口（経済的な理由で一般科目を登録する）などの問題を引き起こす可能性のある欠陥を理解した上で、学力が高くない学生や、外部要因により学力が低下して成績平均値に影響が出た学生を、同時多発的なボトルネックシステムから救済するものである。これにより、各学年のすべての生徒に平等な機会が与えられる。

［図 3］オレゴン州立大学[1]（左）とボストンカレッジ（右）の優先履修登録制度[2]（2021 秋まで）

Registration Date	Beginning Access Time	Students Eligible to Register
Sunday, May 16	9:00 AM	Athletes: Senior/Junior
	11:00 AM	Honors College & Veterans: Senior
	12:00 PM	Seniors
Monday, May 17	7:00 PM	Athletes: Sophomore/Freshman
Tuesday, May 18	7:00 PM	Post Baccalaureate Veterans
	8:00 PM	Post Baccalaureate Students
	9:00 PM	Honors College & Veterans: Junior
	10:00 PM	Juniors
Sunday, May 23	6:00 AM	Honors College & Veterans: Sophomore
	7:00 AM	Sophomores
Monday, May 24	5:00 PM	Honors College & Veterans: Freshman
	6:00 PM	Freshman

Fall 2021 Registration Timeline

April 13	Fall advising begins. Fall course search opens in EagleApps (fall courses available for view). Public view of Course Information and Schedule will also be available for those without access to the Agora Portal.
April 19	EagleApps registration course planning module opens for fall.
May 25, 9 a.m.	Fall registration opens for graduate CSOM, and undergraduate and graduate WCAS.
May 25, 12 p.m.	Fall registration opens for graduate MCAS and graduate LSEHD.
May 26, 9 a.m.	Fall registration opens for STM and graduate CSON.
May 26, 7/7:30 p.m.	Fall registration opens for SSW.
May 27–28	Fall registration opens for the undergraduate Class of 2022 (registration by appointment, 9:00 a.m.–4:00 p.m.).
June 1–2	Fall registration opens for the undergraduate Class of 2023 (registration by appointment, 9:00 a.m.–4:00 p.m.).
June 3–4	Fall registration opens for the undergraduate Class of 2024 (registration by appointment, 9:00 a.m.–4:00 p.m.).
June 7–8	Fall registration opens for Law students (registration by appointment, 9:00 a.m.–4:00 p.m.).

b. 需要を補うために、より多くのクラスを提供する

需要と供給の基本原理は、供給が制限されているときに大きな需要が発生することを示している。クリック戦争の問題で学生たちが言っていたように、機会が厳しく制限されているため、確実に参加できるように特定のクラスに登録しなければならないという切迫感が生まれる。このような危機感は、学生たちに極端な行動を起こさせることがある。例えば、特定のクラスを得るために他の仲間とクラスを交換したり、お金を払ってクラスの席を確保したりすることである。特に、学生数が多すぎて満席になりがちな専攻科目の必須科目がある場合、厳しい履修機会は学生の卒業までのペースを乱す。

[1] Oregon State University. (2021, July 15). *Priority registration*. Office of the Registrar. Retrieved October 13, 2021, from https://registrar.oregonstate.edu/priority-registration.

[2] Boston College. (n.d.). *Course Priority System*. Introducing EagleApps at Boston College. Retrieved October 13, 2021, from https://www.bc.edu/content/dam/files/offices/stserv/academic/html/EagleApps_StudentComm_Registration_Module_Intro.html.

このような厳しい競争環境に加えて、現在の制度では、国内の学生は第二言語である英語で授業に参加し、修了することが奨励されているため、英語ベースの授業へのプレッシャーがさらに大きくなっている。留学生にとっては、同級生との競争ではなく、英語で授業を受けている国内の学生と競争して、卒業要件である 20 単位を英語ベースの授業で取得しなければならない。この条件を満たすためには、日本語をベースにした多くの科目に空きが出ることになる。

c. 抽選による登録制度

抽選登録制度とは、特定のクラス、特に需要の高いクラスについて、従来の優先順位制度や学年制度ではなく、運と抽選によって登録を行う制度である。抽選制を導入している例としては、立命館アジア太平洋大学の姉妹校である立命館大学がある。立命館大学の「2021 年度版アカデミックハンドブック」の 24 ページ、4. 2 節の「履修登録スケジュール」には、「定員が限られている科目は、通常の登録が始まる前に登録が必要です。履修希望者の中から抽選で入学者を決定します。一旦このようなコースに受け入れられた学生は、そのコースを辞めることができないことをご承知ください」[3]とある。立命館大学では、特定の科目に特化した授業を想定して、特定の授業を抽選で行うことで、正規の受講者をフィルタリングしている。この制度では、学業成績やその他の測定方法ではなく、運と確率を促進して学生を配置する。

d. 外国人学生のための条件を設ける

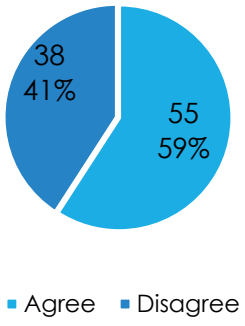
提言 b. で述べたように、国内の学生には卒業要件として、APU で 20 単位分の英語による授業を受けることが求められている。そのため、英語による専門教科の必要単位分の空きがネックになるとともに、その専門的な授業を受けるために学生が急ぐプレッシャーが大きくなる。その結果、日本語ベースの授業の空きが増え、ギャップが生じている。また、留学生は日本語を学ぶために日本語コースを受講しているにもかかわらず、日本語ベースのクラスを受講する必要がない。留学生に日本語を使う機会を与え、語彙力や流暢な話し方をさらに向上させるためにも、留学生が日本語ベースのクラスを受講するというアイデアを奨励すべきである。国内の学生には別の言語の授業を受けることを義務づけ、外国人留学生には義務づけず、少しだけ奨励するという考え方は、公平性の面で誤った認識を生み出していると言える。「国内の学生が英語の授業を受けなければならないのなら、留学生は日本語の授業を受ければいいのではないか」、「留学生は日本語の能力を高めるために日本語の授業を受ければいいのではないか」という疑問が出てくる。留学生は日本語の授業を受ける必要はないが、英語の授業を受け続けた結果、日本語での会話に苦労するようになってしまったということもある。

---

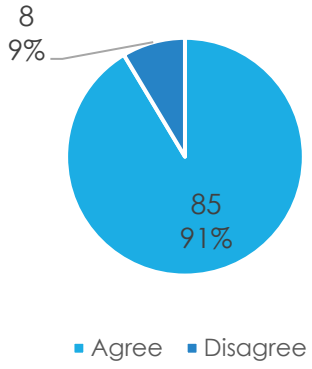
[3] Ritsumeikan University. (n.d.). *Academic handbook　(for all undergraduate students)　－AY2021 ...* Academic Handbook. Retrieved October 13, 2021, from http://en.ritsumei.ac.jp/gla2-e/file/academics/courses/forms/academic_handbook_for_all_undergraduate_students_-ay2021-.pdf.

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

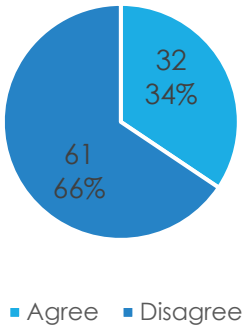
［図 4］提言 a：学年ベースの優先登録制度に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 5］提言 b：より多くのクラスを提供することに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 6］提言 c：抽選登録制度に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



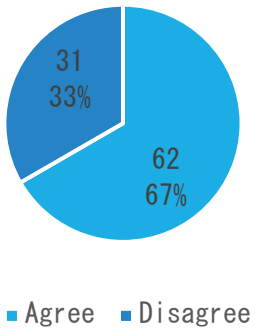
学生の意見　（回答総数 ＝ 13［日本語］＋ 12［英語］）

- 抽選によって「学びの機会」が奪われる可能性もある（同様意見 2+7 件）
- ランダム性の高い抽選よりも、人数を増やす、クラス数を増やす方がよい（同様意見 1+0 件）
- 抽選によって、履修科目交換という問題を促進させはしまいか（同様意見 2+0 件）
- 取りたい科目をとるために一生懸命勉強して GPA を上げている学生が報われなくなる（同様意見 1+2 件）

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

- （なんにせよ）自分の受けたい講義を受講できるようにしてほしい（同様意見 2+0 件）
- いわゆる「楽単」授業としての人気科目はそもそも抽選制度以前に授業の在り方を考えるべき（同様意見 1+0 件）
- 一般の履修登録が始まる前の抽選ならば賛成する（同様意見 1+0 件）
- 特定の人気科目に対する抽選なら賛成である（同様意見 1+0 件）
- 修正期間で新たに科目登録できるようにしてほしい（同様意見 1+0 件）
- どの科目が受講できてどの科目が受講できないのかわかるのが遅くなり、時間と手間がかかる（同様意見 1+1 件）
- すべての学生にとって公平な運用（たとえば学生の年次ベースと並行させるなど）であれば、抽選はよい戦略である（同様意見 0+2 件）

［図 7］提言 d: 反対言語の授業の履修を義務付けることに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



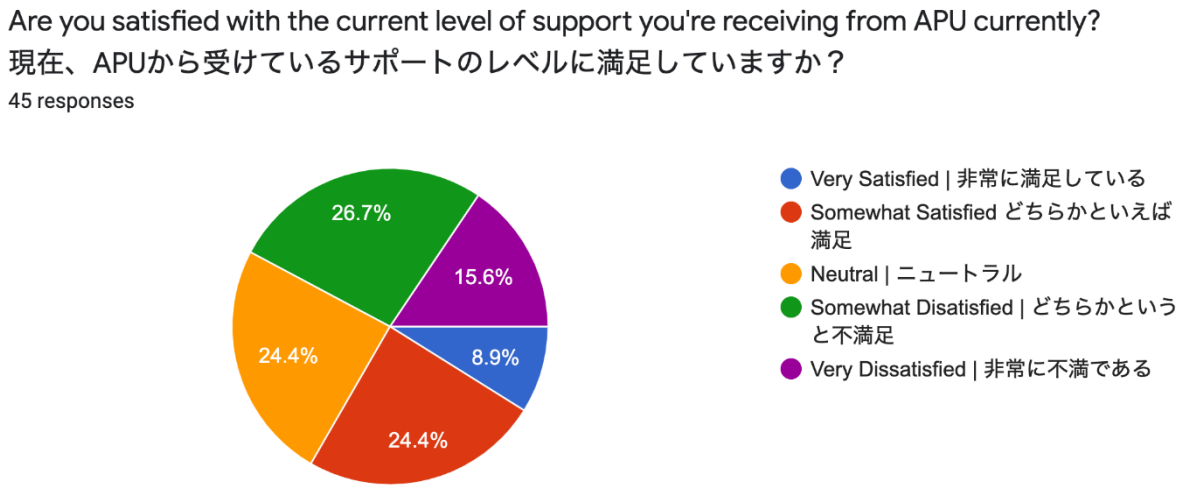
提言　Ⅰ-2　学習支援（授業関連＆その他）

■ 問題点

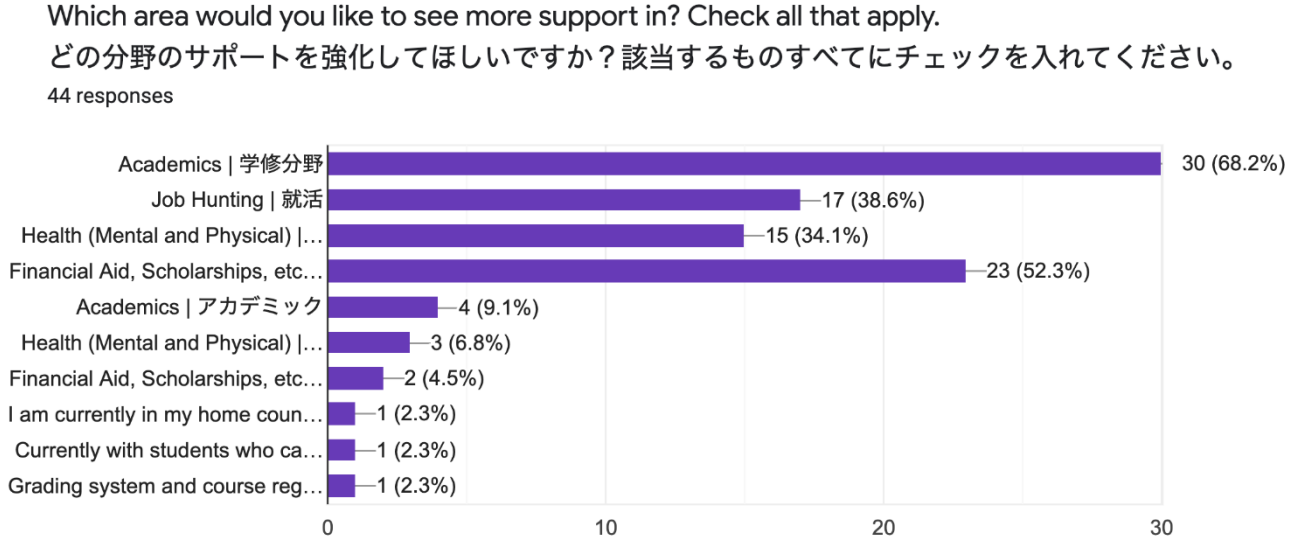
1. 不満や問題が早急に解決されない
2. 上手くコミュニケーションが取れない
3. 国際学生へのサポートが不十分

■ データと現状分析

［図 1］「現在、APU から受けているサポートのレベル」に対する満足度（5 段階、回答者 45 人）



［図 2］学生がもっとサポートしてほしいと思う項目（回答者 44 人）



I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

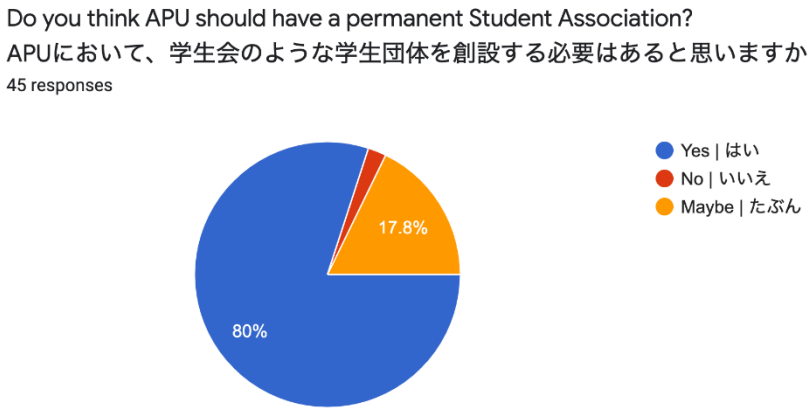
［図 1］において「非常に満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生は全体の 33.3%であり、満足度は比較的低いと言える。また、［図 2］によるとサポートの改善の需要が高い項目は学修分野であることがわかる。

学生の意見　（回答総数 45 ＝ 6［日本語］＋ 39［英語］）

- 大学には大きな変化を期待している。例えば、カリキュラムの調整に学生が参加することや、カフェテリアの食事に関するアンケートが実際にメニューに反映されるなどが挙げられる
- APU は学生の声に積極的に耳を傾ける必要がある
- 学生の希望に沿った授業をカリキュラムの中に組み込んで欲しい。これによって授業を積極的に履修したい学生の学びを促進させることができるだろう
- 国際学生ために、APU はもっと最新の情報を提供してほしい
- 授業に対する学生の声をそのまま反映することができる仕組みが欲しい。教授方の教え方や性格は重要事項であるため、大学への入学審査は慎重に行うべきです。数人のみではなく、すべての教授が素晴らしい教授になってほしい。大学側が定期的に各クラスを訪問して観察するなどして、現状を把握するようにして欲しい
- 大学の職員の中には私たちの日本語を理解しようとしない人や、英語を全く使おうとしない人がいることもあった

また、そのような学生の声を反映させるための案として学生会のような学生団体を設立することを提案するために、追加で調査を行った。

［図 3］「APU に学生会のような団体を創設する必要はあると思いますか」に対する回答（回答者 45 人）



これによって、学業からカフェテリアに至るまでの幅広い事項における大学の様々な決定事項に対して、自分たち学生の声がもっと反映されることを望む生徒が多くいること明らかになった。学生会が有益であると感じている学生も非常に多く、44 件の賛成に対して反対はわずか 1 件である。今回のアンケートの回答から、大学と学生との間における中間的な立場を取る役職が存在していないことも判明した。学生が直面している様々な問題の改善を多くの学生が望んでいるにもかかわらず、それを誰に相談すべきなのかがわからないというのが現状である。

具体的には、「学生会は大学での経験を向上させるのに適しているだけでなく、学生会に参加することで得られるスキルや人脈は、学生が卒業後も活躍するのに役立つ。特に COVID-19 が流行している今、学生会の役割は非常に重要である」という意見があった。

本「学生の声プロジェクト」は、APU の目標「学生の積極性、リーダーシップスキル、多文化環境の向上」に沿った非常に有益なものであると考える。日英両言語基準の学生がそれぞれの役割のもとに一緒にプロジェクトに取り組むことで、国際的な職場環境のシミュレーションを行うことができている。学生部や様々な教員の指導のもと、「学生の声プロジェクト」は現在、大学に対する多くの改善点を浮き彫りにしています。アイルランドの大学で行われた調査によると、学問分野と学生組合の協働によって、高い成功率で学生のエンゲージメントが得られることが示されている。この調査によると、学生組合のプロジェクトに対する学生の満足度と関心が大幅に高まり、リーダーになりたいと思う学生も 80%増加したという。プロジェクトの実施が、学生のリーダーシップと社会的スキルの向上に貢献したと考えられる [4]。

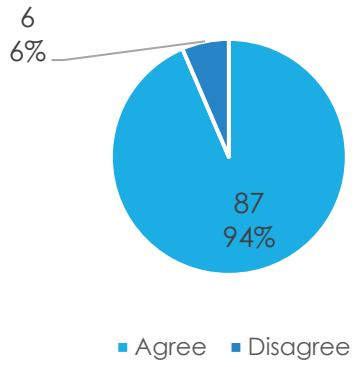
■ 提言

a. 大学と学生との橋渡し役として、現役学生と卒業生で構成される学生会の設立

学生会は、学生と大学の双方にとって非常に有益なものであることが証明されている。学生側は、大学に溶け込み、スキルを身につけることで、将来的に成功する可能性が高くなる見込みがある。大学側も、学生が成功する確率を高め、学生が出したアイデアに従って大学が改善されれば、より高い評価を得ることができるからだ。したがって、「学生の声」プロジェクトが永久化されれば、大学が改善される可能性はより高くなると言える。問題点として挙げた、コミュニケーション上の問題や迅速な対応がなされないことに関しては、常にフィードバックを必要とするため、そのためには学生会と APU が上手く連携を取り、学生のニーズの変化に対応していくことで大学の改善を図るべきである。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 4］提言 a：学生会設立に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



学生の意見　（回答総数 13 ＝ 8［日本語］＋ 5［英語］）

- 学生の声を反映する活動は非常に良い（同様意見 4+5 件）
- 毎セメスター、プロジェクトへの参加を促すべきである（同様意見 1+0 件）

[4] Scriver, S., Walsh Olesen, A., & Clifford, E. (2021). Partnering for success: A students' union-academic collaborative approach to supplemental instruction. Irish Educational Studies, 40(4), 669-688. doi:10.1080/03323315.2021.1899020

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

- 提言書に、不適切と思われる表現やメンバー個人の考えに基づいた提言なども見られた（同様意見 3+0 件）

常設の学生団体を設立するという提案についての追加アンケートでは、94%（87 人）が賛成と回答し、圧倒的な支持を得た。コメントによると、学生が大学の環境に対してより積極的になり、発言権を持つための実行可能なステップになるとの意見が見られた。特にパンデミックといった非常事態には、学生が大学とのつながりをより強く感じるための方法として非常に有効であるという意見もありました。

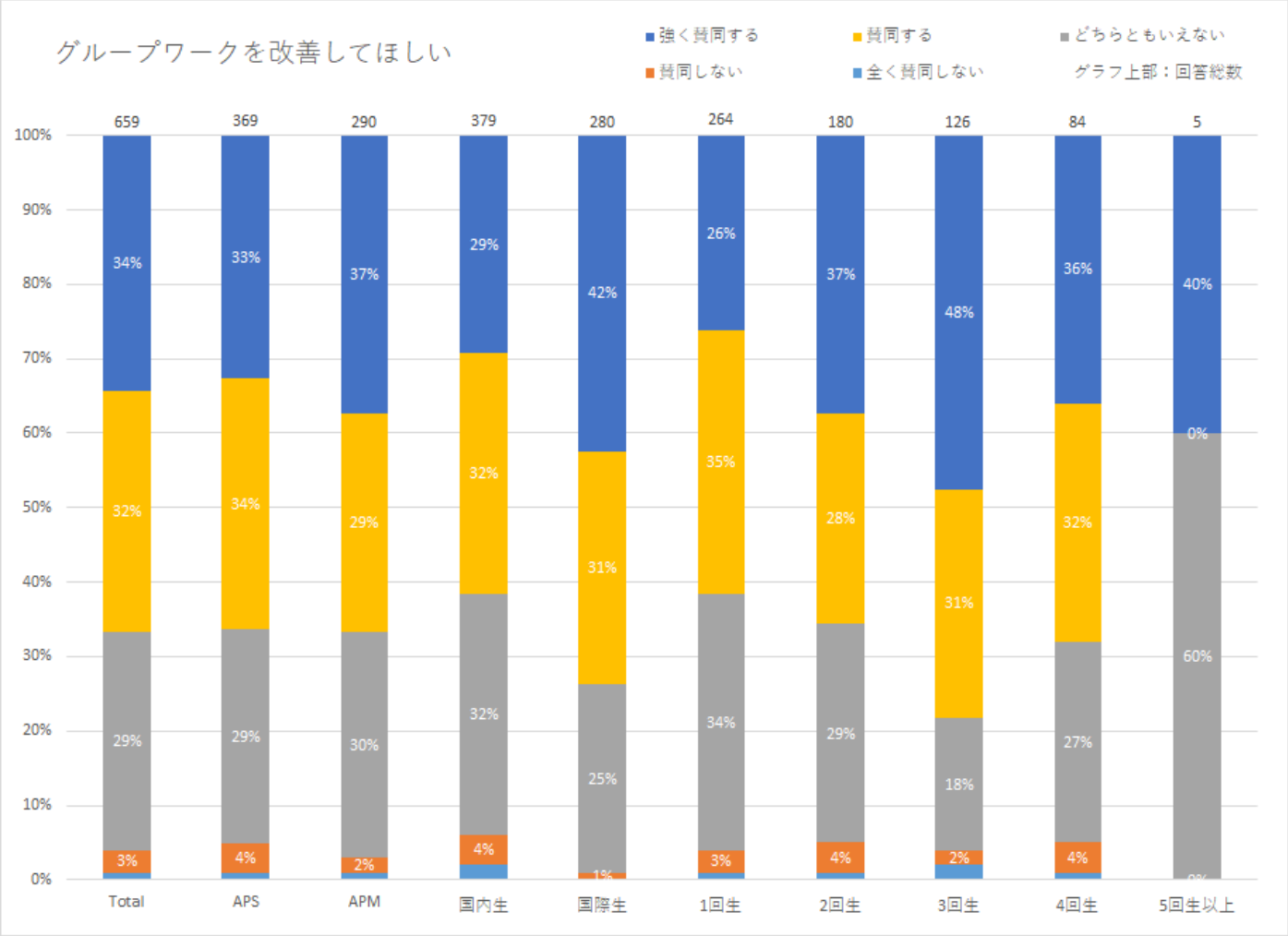
提言 Ⅰ-3 グループワーク

■ 問題点

1. 効率性に欠けている
2. フリーライダーがいる

■ データと現状分析

［図 1］「グループワークを改善してほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 66%である。また、「賛同する」「強く賛同する」に対し、回生別に賛同比率をみると、3 回生が 79%と一番多い。次いで、4 回生が 68%、2 回生が 65%、1 回生が 61%であり、全ての回生で 60%の学生がグループワークを改善してほしいと望んでいる。

立命館アジア太平洋大学（以下、APU）では、1 年次の多文化ワークショップや SSAW に始まり、多文化環境で学ぶことを学生に奨励している。また、入試公式ページのブログの中にも、「グループワークは APU の教育の大きな部分を占めています」と書かれている。グループワークに関する学生の意見が以下である。

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

学生の意見　(回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語])

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - オンラインでのグループワークはやめてほしい。自分の意見を言ったり、他の人の意見を促したりしても、誰も返事をしてくれないし、相手の表情も見えないので、何を考えているのかわからない
  - グループワークに頻繁に登場するフリーライダーは、非常に迷惑。グループワークを取り入れている授業では必ず相互評価を採用し、一定のレベル以下の場合はＦをつけてほしい
  - グループワークで必ずしも学びが深まるとは思えない。グループワークは、不必要なストレスをもたらす
  - 先生は、グループワークに協力的でない人にも注意を払うべき。何に対してどれだけ点数を得たのか、きちんと可視化してほしい
  - フリーライダーが多い。学生がきちんと参加せず、誰かの努力で良い成績を取ってしまうことがある。それは不公平であり、グループワークのシステムを変更または廃止する必要がある
  - オンライン授業が中心となった今、アクティブラーニングの必要性が理解できない。コミュニケーション能力よりも知識が欲しいので、グループワークを勧めるのはやめてほしい。グループワークよりも、レポートでの評価が良い

- 「どちらともいえない」
  - グループワークそのものを目的とした講義がある。しかし、グループワークはやらなければならない作業である場合もある
  - グループワークの評価の割合を制限してほしいです。協調性のない学生が多すぎる
  - グループワークは、私たちがよりよく学ぶための一つの方法だと思います
  - グループワークに参加した人がわかるように、manaba にグループチャットのメッセージをアップロードさせる先生がいました。私はその評価方法が気に入ったので、グループワークのある授業ではそれを導入すべきだと思います
  - グループワークは、オンラインクラスでは特に難しい。ビデオやマイクをオンにしない人もいて、とても大変です。できれば「ビデオをつけてください」と言うのではなく、強制的にビデオをつけさせてほしい

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 定性データなし

学生からの意見には、「フリーライダー」や「言語の壁」、「グループワークは学習方法ではなく、ただのストレス」が含まれていた。例えば、メンバー間の言語レベルの違いにより、コミュニケーションや仕事の配分がうまくいかないことがあるという。これは、英語開講の授業でよく見られる。理由としては、国内学生が反応しない、また協力的でないことが多いという。「フリーライダー」については、自分がやらなくても他メンバーが自分の作業もやってくれると確信しているから存在すると考えられる。一見アクティブなメンバーのように見えても、実際には、グループや特にリーダーに「やり方がわからない」と言って、仕事から逃げている学生もいるという。そのため、グループワークの相互評価を成績に含める教授もいるが、行

わない教授もいる。しかし、グループ内で話し合って相互評価をするように指示する授業もあるが、話し合って決めていては、公正な評価ができているとは考えにくい。

■ 提言

a. 言語の壁を減らす工夫をする

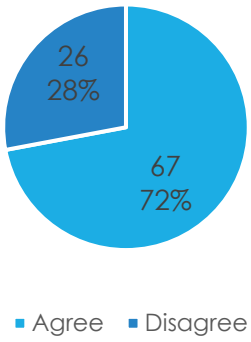
グループワークを円滑にするべく、反対言語の授業に参加する前には、グループワークへの心得を学ぶ必須セッションを設けたり、学校側が短い個人課題を出すのがよいといえる。そうすることで、反対言語授業を受ける学生が、何を期待すべきかを知ることができ、実際にグループワークに参加できると考えられる。

b. グループワークを行う全ての講義で、相互評価制度を導入する

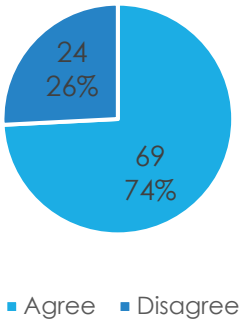
フリーライダーが少なからずいるという問題を改善するために、グループワークを行う全ての授業で相互評価を行い、学生の成績に大きく反映させるべきだと考えられる。そのために、教授が使用できる詳細な相互評価のフォーマットを作れば、さらに良いといえる。もし、相互評価制度の義務化が難しければ、ブレイクアウトルームにてカメラを付けることを義務づけるか、TA をブレイクアウトルームに配置することなどが良いといえる。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 2］提言 a：言語の壁を減らす工夫をすることに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 3］提言 b：グループワークの相互評価制度に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

合計 93 件の回答が集まり、両案ともに 70%以上の同意が得られた。提言 a に対する学生のコメントを見ると、コミュニケーションがうまくいかないと他の学生に悪影響を及ぼすという意見が多く見られた。また、協調性がなく、グループメンバーとのコミュニケーションがうまくいかないと、混乱を招くという意見もあった。確かに、反対側の言語の授業を受けるために、強制的にセッションを設けたり、一定の制限を設けたりすることは、難易度が高く簡単なことではないかもしれない。しかし、学生が受けている教育の質を向上させるためには、大学としての対策が必要であると考える。一方、提言 b については、特に COVID-19 におけるオンライン授業で多くの学生が沈黙の中で行われるグループディスカッションを経験している。標準化されたピアレビューシステムは、質の低いクラスやピアレビューシステムがないクラスに効果的で、学生が不公平な評価の影響を受けることを最小限にし、フリーライダーを防ぐことができると思われる。

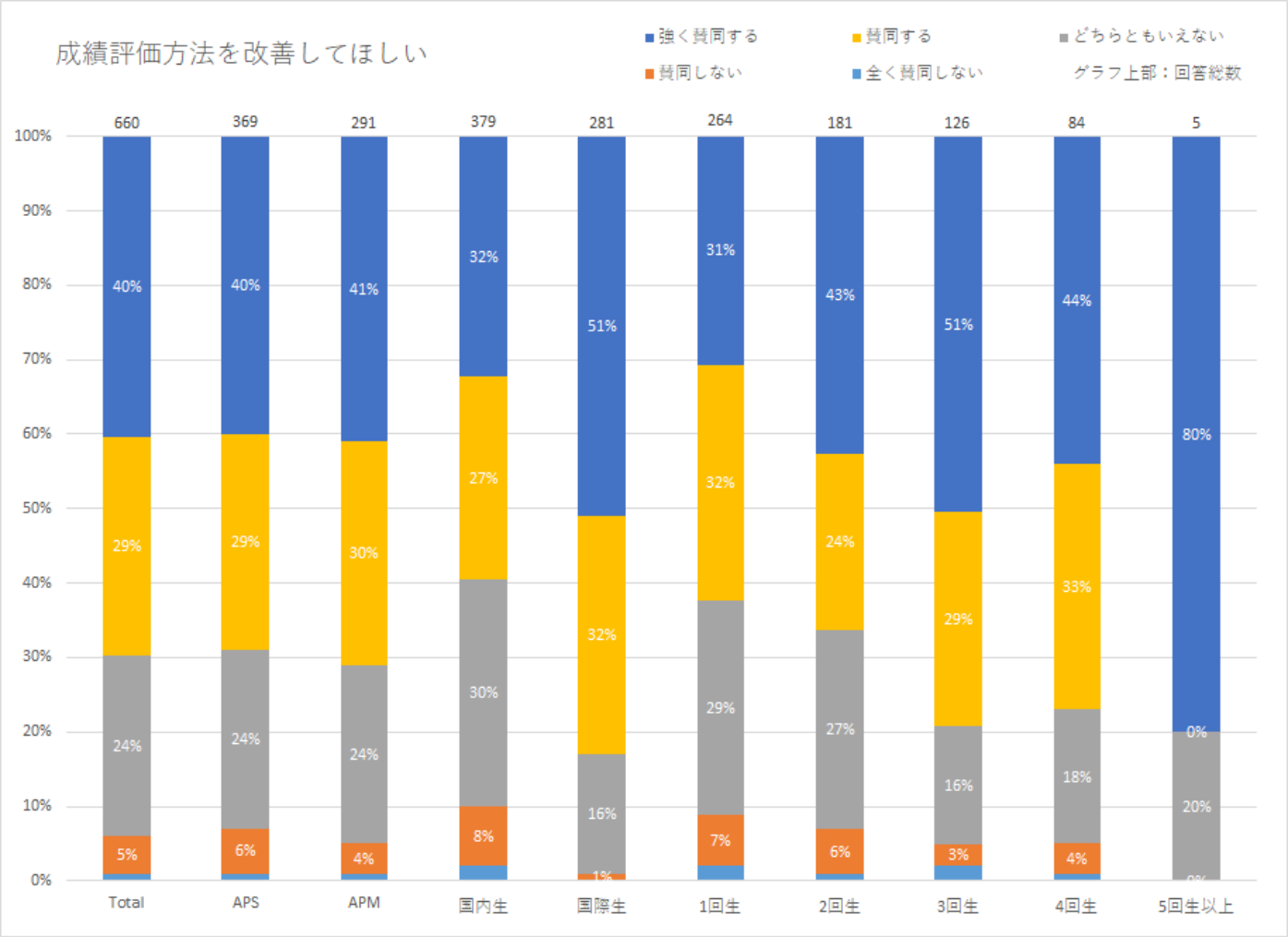
提言 Ⅰ-4 成績評価方法

■ 問題点

1. 効率性の問題
2. 透明性の問題

■ データと現状分析

［図 1］「成績評価方法を改善してほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



現在 APU では、A プラスから F までのレターグレード、または Pass か Fail かの、2 種類の評価方法がある。さらに、GPA には累積 GPA とセメスターGPA の 2 つの見方があり、学期ごとの科目登録の優先順位を決めるのに使われている(2021 学部履修ハンドブック pp.146-149 にも記載)。

アンケート結果を見ると、多くの学生が APU の成績評価方法やシステムに不満を持っている。表に示されているように、69%以上の学生が成績評価システムに改善の余地があると答えている。さらに、現在の APU での成績評価システムの運営に満足していない学生も多くいた。

［図 2］現在の APU の成績評価方法

評価	得点率	合否
A+	90%以上	合格
A	80～89%	
B	70～79%	
C	60～69%	
F	59%以下	不合格

上記以外の評価

記号	意味	補足
P	Pass （合格）	一部の科目で使用しています
T	Transfer （認定）	60単位を上限とします。※
R	Approved for Re-registration （同一科目再履修）	単位として集計はされません
E	Exemption （履修免除）	単位として集計はされません

※2回生・3回生に編・転入学した学生については、編入学時に認定された単位数は含みません。

学生の意見 （回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 成績照会が学生のために機能していない
  - 採点方法を改善してほしい。とても壊滅的で、意味がないのではないか
  - 自分の成績をリアルタイムに把握できればいいが、manaba に課題の成績を全く掲載しない先生もいれば、Cengage などの別のサイトを利用している先生もいる。そのため、自分の成績を計算するのが難しい時がある。これは絶対に改善できると思う
  - 自分の不得意な部分を理解して、改善できるように、成績の透明性を高めてほしい
  - セメスター/クウォーターの途中で、教授が学生の今の成績状況を報告し、最終的な成績に対する私たちの立場を確認できれば、最終的な結果に驚きを少なくすることができると思う

- 「どちらともいえない」
  - APU で開講されている講座には概ね満足している
  - まだ授業が始まったばかりなので、何が良いのか悪いのかよくわからない

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 先生はすでに十分な成績評価の透明性を示していると思います

■ 提言

a. 成績の透明性を高める

APU の成績評価システムの主な問題点の一つは、透明性です。

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

APU の学生は、セメスターが終わって 1 ヶ月以上経ってから、自分の最終的な成績を見ることができる。しかし、多くの教授が、各小テストや課題、試験の成績の詳細を提供していない。また、教授の中には、学生が受け取る成績についてコメントや文句を言うべきではないと言う人もいる。
また、学生が学期を通して行っている、各課題や小テストの評価を知らない場合は、どのように学生が成績評価の問い合わせをできるだろうか。その場合、学生が自分で点数を計算し、得られた点数を受け入れることができるかどうかが重要である。しかし、成績の詳細が提示されない限り、学生がその成績を受け入れるとは思わない。

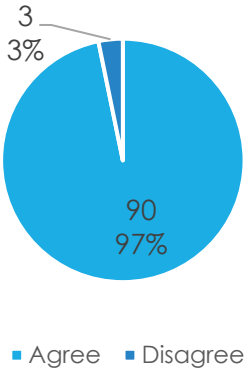
そのため、もっと透明性の高いシステムに変更すべきである。透明性の欠如は、学生のやる気を失わせ、学生に不安を与えるため、学生が学期中に自分の立ち位置を一貫して確認することができれば、学生は自分の立ち位置を知ることができる。また、遅れをとっている場合は、より良い成績を取るために努力する可能性が高くなると考えられる。

b.　成績問い合わせへの柔軟な対応をする

APU には成績照会システムがあるが、うまく機能していないのが現状である。学生は成績照会書を提出することができるが、多くの制限がある。また、アカデミックオフィスのウェブサイトに記載されているように、教授が学生の成績を変更したとしても、学生の GPA に適用されるのは、履修登録期間 B を過ぎてからである。そのため、APU の履修登録システムが、GPA に基づいて優先順位を付ける制度であることを考えると、これは改善しなければならない。そのために、APU は成績照会について、より柔軟に対応すべきである。教授は、成績の付与や変更に関して、より大きな権限を持てるようにすべきである。もし、学生の成績照会が認められた場合は、できるだけ早く、受け取った GPA に反映させるべきである。なぜならば、それによって科目登録の時期や次の学期に履修できる科目が変わる可能性があるからである。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

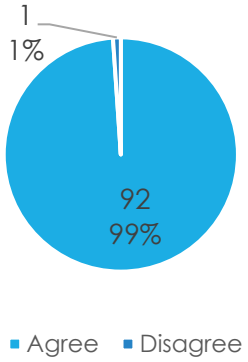
［図 3］提言 a：成績の透明性を高めることに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



透明性の問題については 97%の学生が同意しており、この提案は学生から多くの支持を得ている。コメントでも、ほとんどの学生が高い同意を示していた。成績が学生に共有されることで、学生は最終成績に記載

される成績の理由を受け入れ、理解することができます。学生へのフィードバックと成績は、コースを通して学生が学び、より深い理解を得るのに役立つことは間違いないと考える。

［図 4］提言 b：成績問い合わせの柔軟な対応に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



提言 b に 99%の同意が得られたことで、成績照会の柔軟性を大学側で検討する必要があると思われる。提言 b の主旨は、現在の成績照会システムが不便であるということである。この提案に同意した学生の数が示すように、この提案が検討され実施されれば、学生にとって大きな助けとなるだろう。

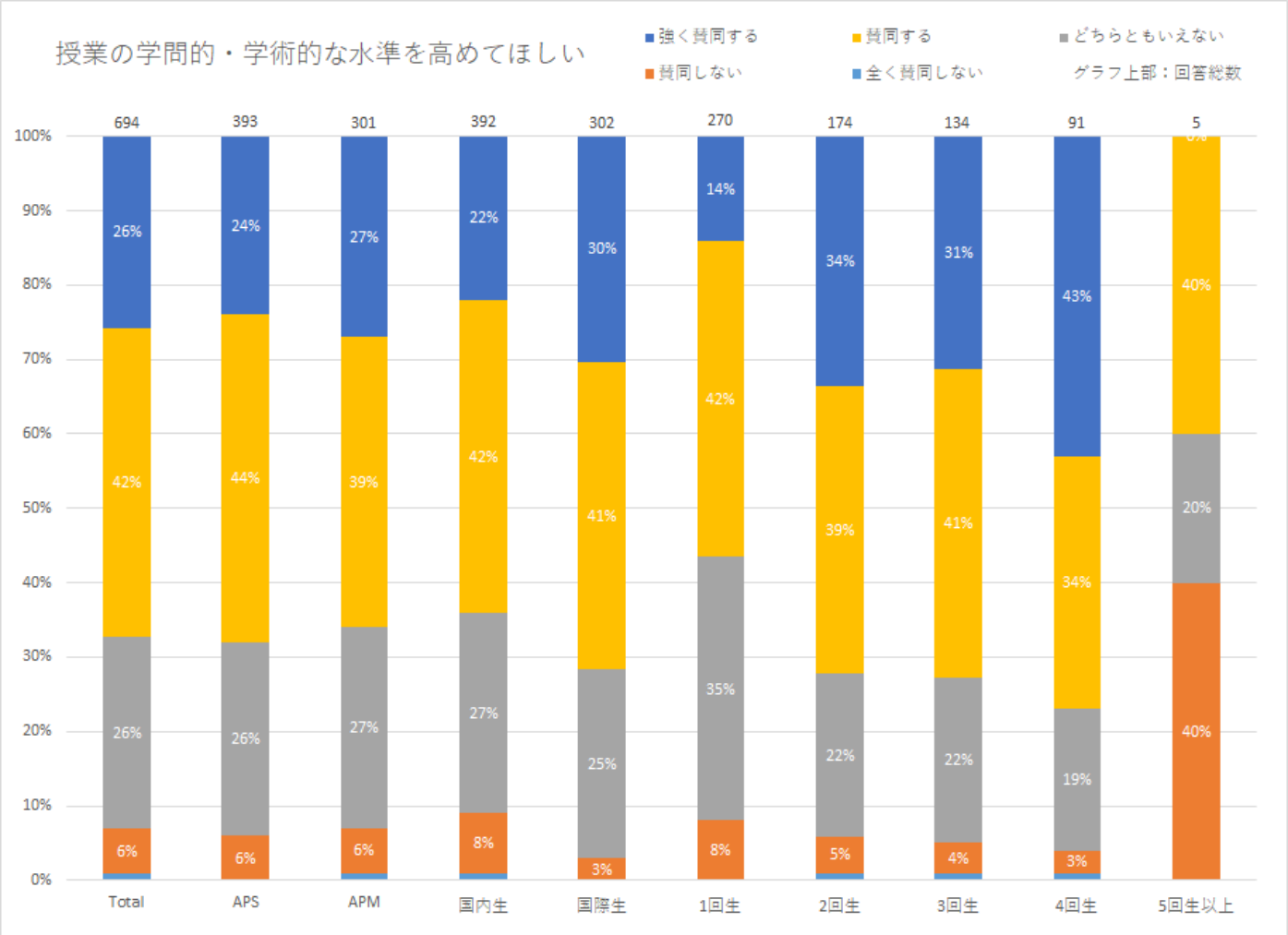
提言　I -5　授業の学問的・学術的な水準(1)

■ 問題点

1. 授業の質が低い
2. 講師の教え方が不十分である
3. 専門科目や主要科目が少ない

■ データと現状分析

［図 1］「授業の学問的・学術的な水準を高めてほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 66%である。また、「学部」「国内生／国際生」ごとの賛同度の割合はほぼ同じである。

学生の意見　（回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - APU の授業は簡単すぎて自分のためにならない

- 教員の中には、教え方が一定の水準に達していない人もいる。講義中にスライドを読むだけの人や、一方的な講義をするだけの人を想定した回答である
- APU に設置されているコースには広い選択可能性がなく、講義の種類も限られている
- APU は専門的な講義の数を増やすべきだ。200 番台、300 番台の科目を成績に関係なく柔軟に受講できるように大学の方針転換をしてほしい

- 「どちらともいえない」
  - 既存のシステムにはどちらかといえば満足している

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 現在の講義に満足している

■ 提言

a. 講義の質を高める

【具体案】

- シラバスを作成する過程で、教員や学生の代表などの関係者から、様々な意見を集める
- 将来的に学び、応用できるような、より具体的な例が必要なため、理論よりも実践的な学習を優先する

b. 専門科目や主要科目の受講機会を増やす

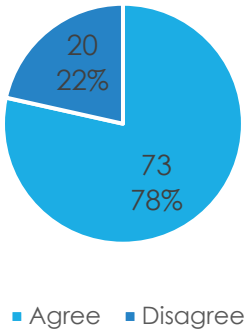
専門科目の数が限られている状況を改善するために、新たな専門科目を担当する教員を採用し、専門科目の数を増やす。現在在籍中の教員に講義を持ってもらうことができるならよいが、業務量的にも難しいと考える。

c. 教員の指導方法を改善するための特別・追加研修を行う

全教員を対象に指導方法を改善するための特別研修を毎月実施するとよいのではないか。教育コンサルタントや専門家を招き、研修を行う。アクティブなクラスの雰囲気を作るために、すべての講師が双方向型の授業を適用すべきである。

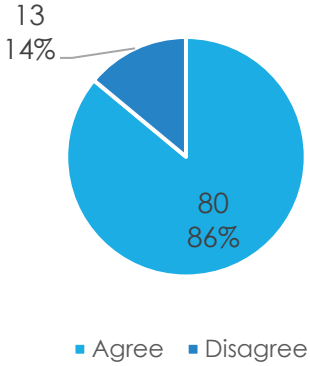
■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 2］提言 a：講義の質を高めることに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



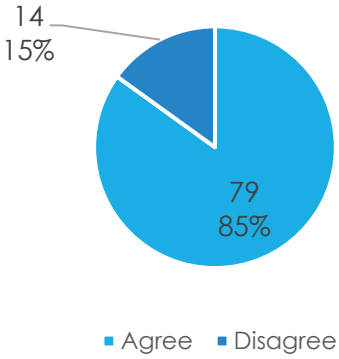
講義の質を向上させる提案についての追加アンケートの回答は、78%（73 人）が同意しており、多くが肯定的であった。

［図 3］提言 b：特殊講義や専門科目の受講機会を増やすことに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



学生が様々な特論の講義や専門科目を受講する機会を増やすという提案についての追加のアンケート回答は、86%（80 人）が同意しており、多くが肯定的であった。

［図 4］提言 c：教員の指導方法改善のための研修実施に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



教育方法の改善を目的とした APU 教員のための特別・追加的な研修を実施するという提案に対する追加のアンケート回答は、85%（79 人）が賛成と回答し、多くの学生が肯定的にとらえた。

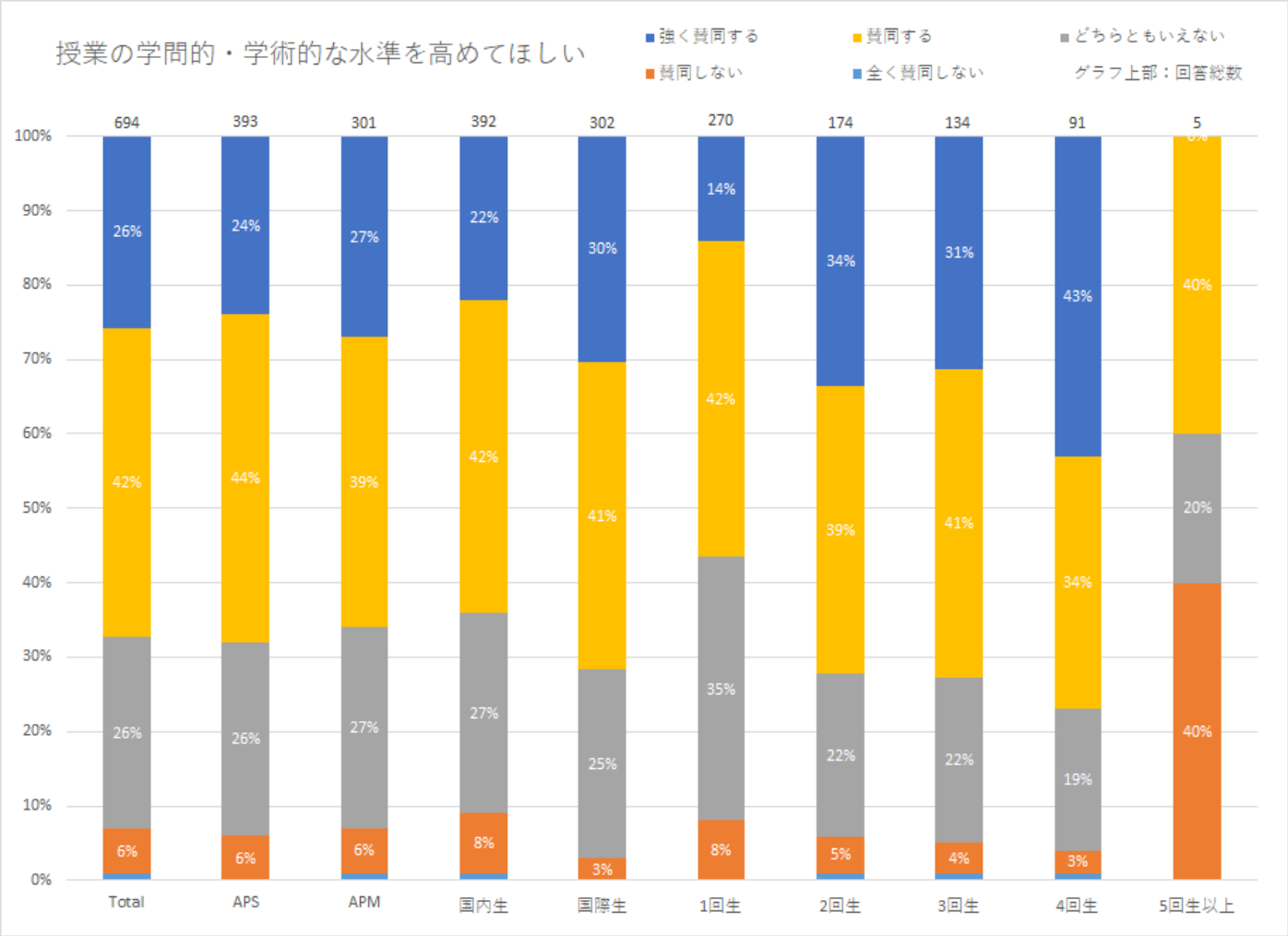
提言 Ⅰ-6 授業の学問的・学術的な水準(2)

■ 問題点

1. 授業の学問的水準が低い

■ データと現状分析

［図 1］「授業の学問的水準を高めて欲しい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 68%である。また、回答数が 7 人のみである 5 回生以上の回答を除けば、どの回生においても「賛同しない」「全く賛同しない」と答えた割合は 8%以下と非常に少ないことが読み取れる。

学生の意見 （回答総数 301 ＝ 151［日本語］＋ 144［英語］）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 新しい学びが得られない・簡単すぎる・つまらない（同様意見 47 件）
  - 専門性をもっと深めてほしい・専攻分野を広げてほしい・専攻科目を増やしてほしい（同様意見 23 件）

- ➢ スライドを読むだけの授業に問題あり・先生からの一方的な授業が多い・グループワークを増やしてほしい（同様意見 69 件）
- ➢ 学年関係無く 200、300 番台の科目を受講できるようにしてほしい・専門的な講義を増やしてほしい（同様意見 36 件）
- ➢ その他、教授や学生のモチベーションに関する提案や、国際認証によるデメリット、対面授業を望む声など

- **「どちらともいえない」**
  - ➢ 現状に満足している・授業の理解についていけなくなる可能性がある（同様意見 46 件）

- **「賛同しない」または「まったく賛同しない」**
  - ➢ 現状に満足している（同様意見 15 件）

全体の 68%の学生が賛成しており、反対している学生は全体のわずか 6%のみである理由として、単に授業の質が低いだけでなく、専門分野の科目が充実していないことや、授業体制への不満など、問題は非常に複雑であることが挙げられる。また、講義の質は先生によりけりであることが多く、APU 全体で改善を図ることは簡単なことではない。そこで、本提言では授業内容や授業体制には触れず、毎セメスター終了時に実施される授業評価アンケートの活用方法に焦点を当てる。

現在 APU では授業後に学生にアンケートを行なっており、その結果がアカデミックオフィスのホームページ [5]で共有されている。しかし、共有されているのは選択式の回答のみであり、自由記述に関しては共有されておらず、生徒はその内容を知ることができない。そのため、生徒は自由記述欄に回答したとしても、それらの意見が本当に授業に反映されているかどうかが分かりづらい。また、アカデミックオフィスの HP で記載されてある通り、アンケートの 31 項目の質問がある中で、結果が共有されているのは 25 項目である。共有されていない 6 項目は授業のペースや難易度、課題の量、必要学習時間などを他の授業との比較する形式である。

■ 提言

教学部へのヒヤリングを踏まえ、以下を提言します。

a. 授業評価アンケートの自由記述欄・現在非表示となっている 6 項目の結果を公開する

数多くのデータを集めるためにアンケートは基本的には選択式であるべきで、それをシェアすることにより全体の意見を知ることができるため、授業内容の改善を考える教授にとっても、履修科目を検討する生徒にとっても必要な情報であることは言うまでもない。31 項目の質問に回答した上で自由記述にも回答するということは、その授業に対する不満や、効果的な授業内容の改善案が記述されている可能性が高く、貴重な意見であると言える。それらを一般公開することで生徒は履修科目をより適切に選択することが可能となり、先生は危機感をもって講義に取り組むようになり、結果的に各授業の質の改善に繋がると

[5] 立命館アジア太平洋大学（n.d.）「授業評価アンケート」『アカデミックオフィス』（オンライン）2021 年 9 月 2 日アクセス<https://www.apu.ac.jp/academic/page/content0324.html/?c=17 >

考える。それは、現在結果が共有されていない 6 項目の回答の結果を公表することも同様である。また、生徒の意見全てを公開することで生徒たちはアンケートに回答する意義を感じることができ、結果的にアンケートの回答数が増加する可能性も高まる。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

この提言に関する追加アンケートは行いませんでした。

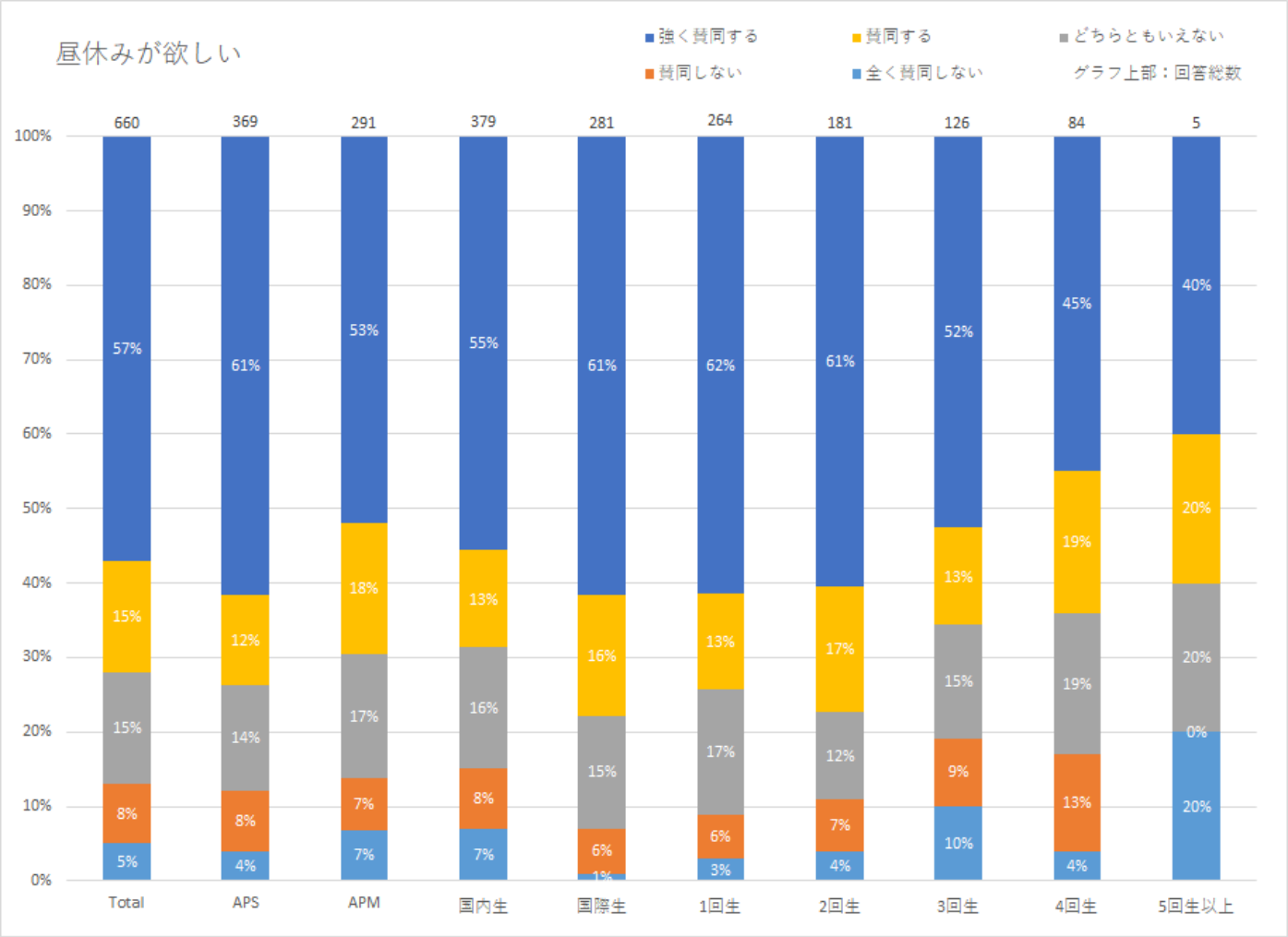
提言 Ⅰ-7 時間割

■ 問題点

1. お昼に休憩する時間がない

■ データと現状分析

［図 1］「昼休みが欲しい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 72%である。また、「回生」に対する賛同の度合い（5 段階）の回答比率は、回生があがるにつれて賛同する割合が減少しており、「学部」「国内/国際」、それぞれに対する賛同の度合い（5 段階）の回答比率は、ほぼ同様である。

まず、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）は、2021 年度春セメスターより全ての授業時間が「100 分」に変更された。それに伴い、休憩時間も 2 限後は 15 分（2 限以外は 10 分）となった。そして、この時間割に対する「お昼休憩」に関する学生の意見が以下である。

学生の意見 （回答総数 324 ＝ 196［日本語］＋ 128［英語］）

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 15 分ではお昼ごはんを食べられない（同様意見 10+10 件）
  - 必須科目の多い低回生や APM 生は時間割が詰まっており、一日中食事ができないことも多々ある（同様意見 5+3 件）
  - （聞きたい授業や必須科目が）連続であるため昼食の時間や昼食を作る時間を確保できない（同様意見 5+3 件）
  - 昼食を食べられないと体調不良になる、体重が落ちた、生活リズムが不規則、不健康（同様意見 5+3 件）
  - お昼休憩がないと、（昼食も食べられないことが多く）授業に集中力が続かない、しっかり休めない、眠くなる、効率が落ちる、疲労感、精神的不衛生（同様意見 13+12 件）

- 「どちらともいえない」
  - 昼休みがあれば授業の時刻が下がるのでこれは避けたいと思う一方、連続授業を受けると集中力が持たないという学生もいると思う（同様意見 1+0 件）
  - 昼休みがあってもなくても、問題ない（同様意見 0+1 件）
  - 今の授業はオンラインなので、昼休みについてはわからない（同様意見 0+1 件）

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 昼休みを導入するとサークルの時間が減ってしまうと思う（同様意見 1+0 件）
  - 昼休みがあると食堂の利用が集中するため、あまり好ましくないのではないか（同様意見 3+0 件）
  - 昼休みを作ると帰るのが遅くなるので作らないで欲しい（同様意見 2+1 件）
  - オンライン授業である今は、昼休みは特に必要がない（同様意見 1+0 件）
  - 昼休みは必要ない。授業の時間割を上手く組めば問題ない（同様意見 1+0 件）

多くの学生（全体の 72%）がお昼休みを設けることに賛同している理由として、お昼ご飯を食べる時間がないというのが大きい。「履修したい授業や特に低回生は必須科目が連続している」（同様意見 8 件）などから、「15 分という短い時間では昼食をとることが難しい」（同様意見 20 件）という現状がある。それに伴い、「授業への集中力欠如」「体重が落ちた」「生活リズムが不規則」（同様意見 8 件）との影響がでている。もちろん、お昼休みを設けることに賛同しない学生もいる。しかし、お昼休みを設けると「サークルの時間が減る」「食堂の利用が集中する」「帰るのが遅くなる」（同様意見 7 件）と、消極的な意見が多いことがわかる。

では、他大学の学生はどのように昼食をとっているのか。以下、他大学の時間割の現状を調べてみると、お昼休みの時間だけを長く確保していることがわかる。

＜他大学の時間割の現状＞

大学名	時限数	始業・終業時間	授業時間・休憩
立命館大学[6]	1-6	9:00-21:10	授業時間 90 分、昼休み 40 分、休憩時間 15 分
南山大学[7]	1-5	9:10-19:05	授業時間 100 分、昼休み 50 分、休憩時間 15 分
東洋大学[8]	1-7	9:00-21:25	授業時間 90 分、昼休み 50 分、休憩時間 4、5 限 15 分（1、2 限間、6、7 限間のみ 10 分）
芝浦工業大学[9]	1-6	9:00-20:30	授業時間 100 分、昼休み 50 分、休憩時間 10 分

■ 提言

教学部および生協へのヒヤリングを踏まえ、以下を提言します。

a. 空き教室を利用し、ハウスコープのような売店および食事をするためのスペースをいくつか設ける

昼休みの時間を設けることで、カフェテリアが密になってしまう、または外部の飲食関係の方をお呼びすることが難しいのが現状である。しかし、学内の生協の方からご協力頂けるというお言葉を頂いたため、生協のお弁当などを販売するスペースを作ることを提案する。また、空き教室を利用することで、カフェテリアだけに人が集まることも避けられると考えられる。

b. 先生方に授業方法を工夫していただく

【具体案】

- 終業時間を守っていただく
- 学生が次の教室（授業）へスムーズに移動できるよう、授業を早めに総括していただく

---

[6] 立命館大学（n.d.）「学年歴・授業開始時間」『立命館大学学び支援サイト』(オンライン)2021 年 9 月 2 日アクセス< http://www.ritsumei.ac.jp/pathways-future/course/calendar.html/>

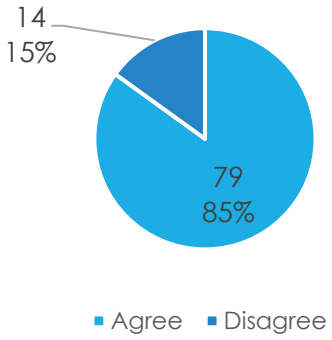
[7] ロバート・キサラ（2020）「2021 年度　授業時間帯および授業日予定表の変更について（お知らせ）」p.1-5.

[8] ＜ https://www.toyo.ac.jp/academics/student-support/jyugyou/octime/hakusan/>

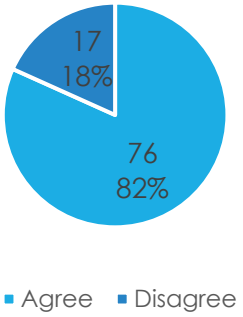
[9] 芝浦工業大学（n.d.）「学生生活」『芝浦工業大学ホームページ』（オンライン）2021 年 9 月 2 日アクセス <https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/schedule.html>

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 2］提言 a：食事のためのスペースを確保することに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 3］提言 b：先生方に授業方法を工夫してもらうことに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



学生の意見　（回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 休み時間が短くてリラックスできない、短すぎる（同様意見 3 件）
- 100 分授業に変更した理由を明確にしてほしい（同様意見 2 件）
- 軽食で済ませることが多く栄養がとれない、昼食を我慢するときもある（同様意見 2 件）
- 学生のタイムマネジメント能力が上がっているからいい。困っていない（同様意見 2 件）

追加サーベイの結果は、当初とったアンケートと同じような意見が集められた。

II. Learning Support Services

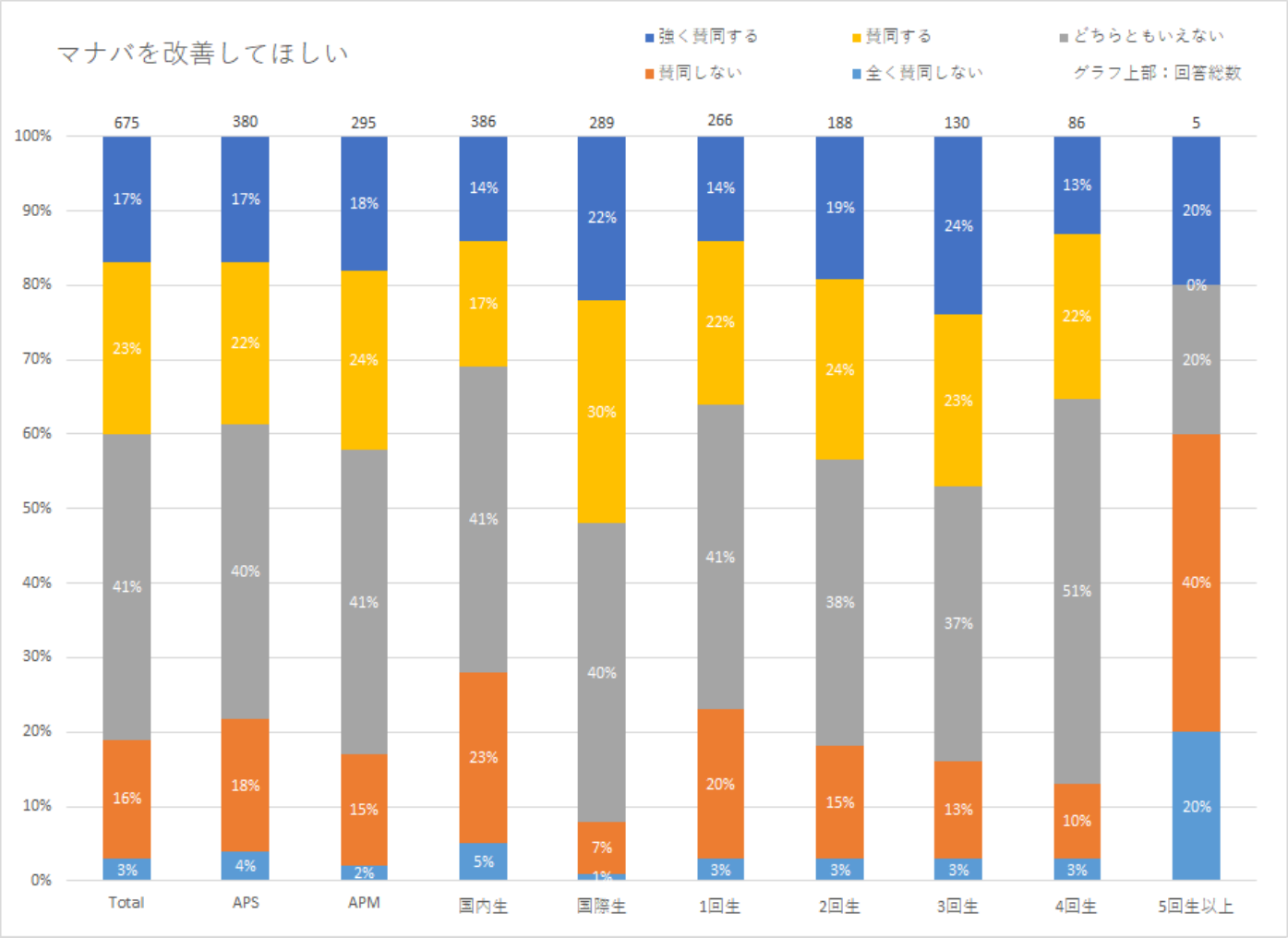
提言 Ⅱ-1　IT サポートサービス

■ 問題点

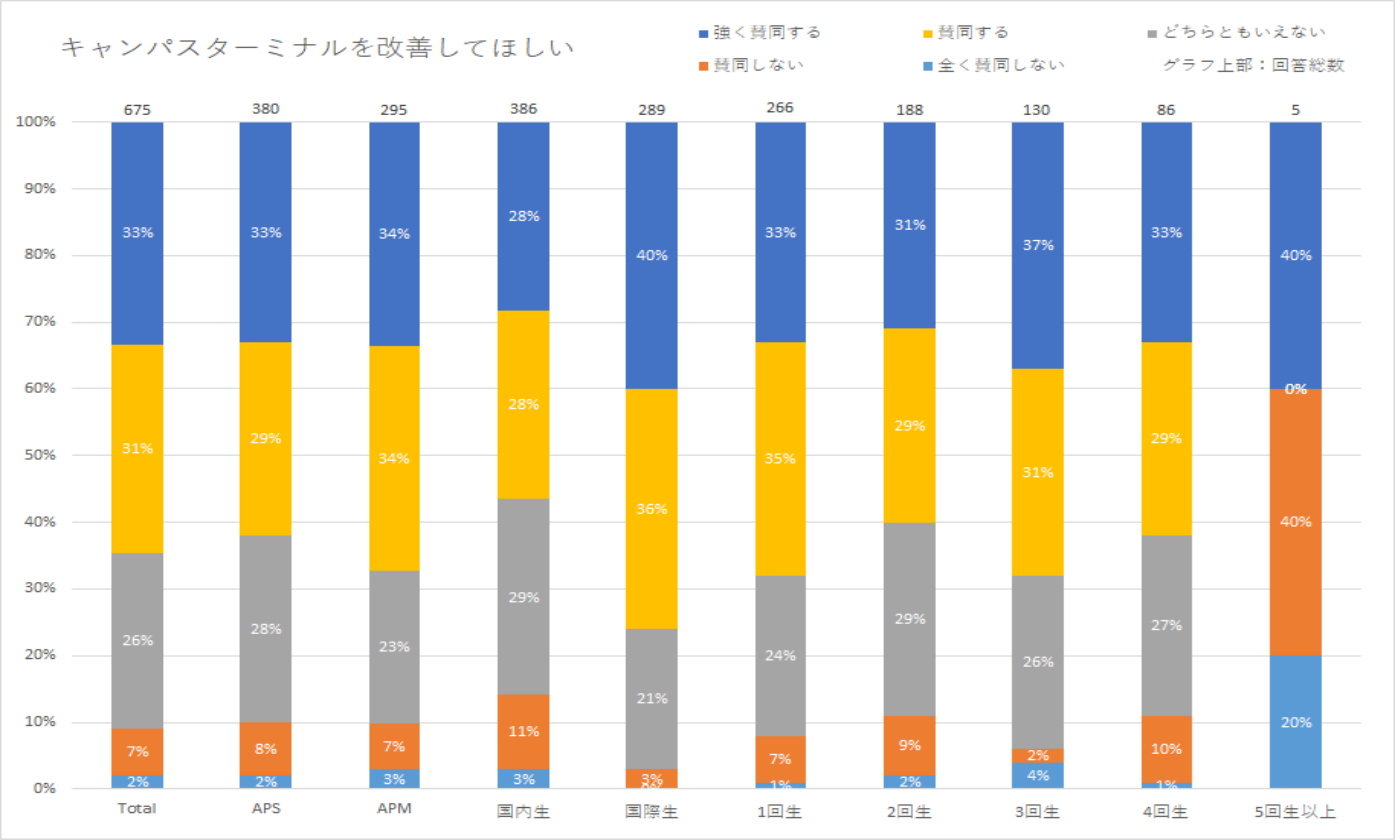
1. 学生が IT サービスについて不便に感じている部分は何か
2. その改善方法はどのようなものがあるか

■ データと現状分析

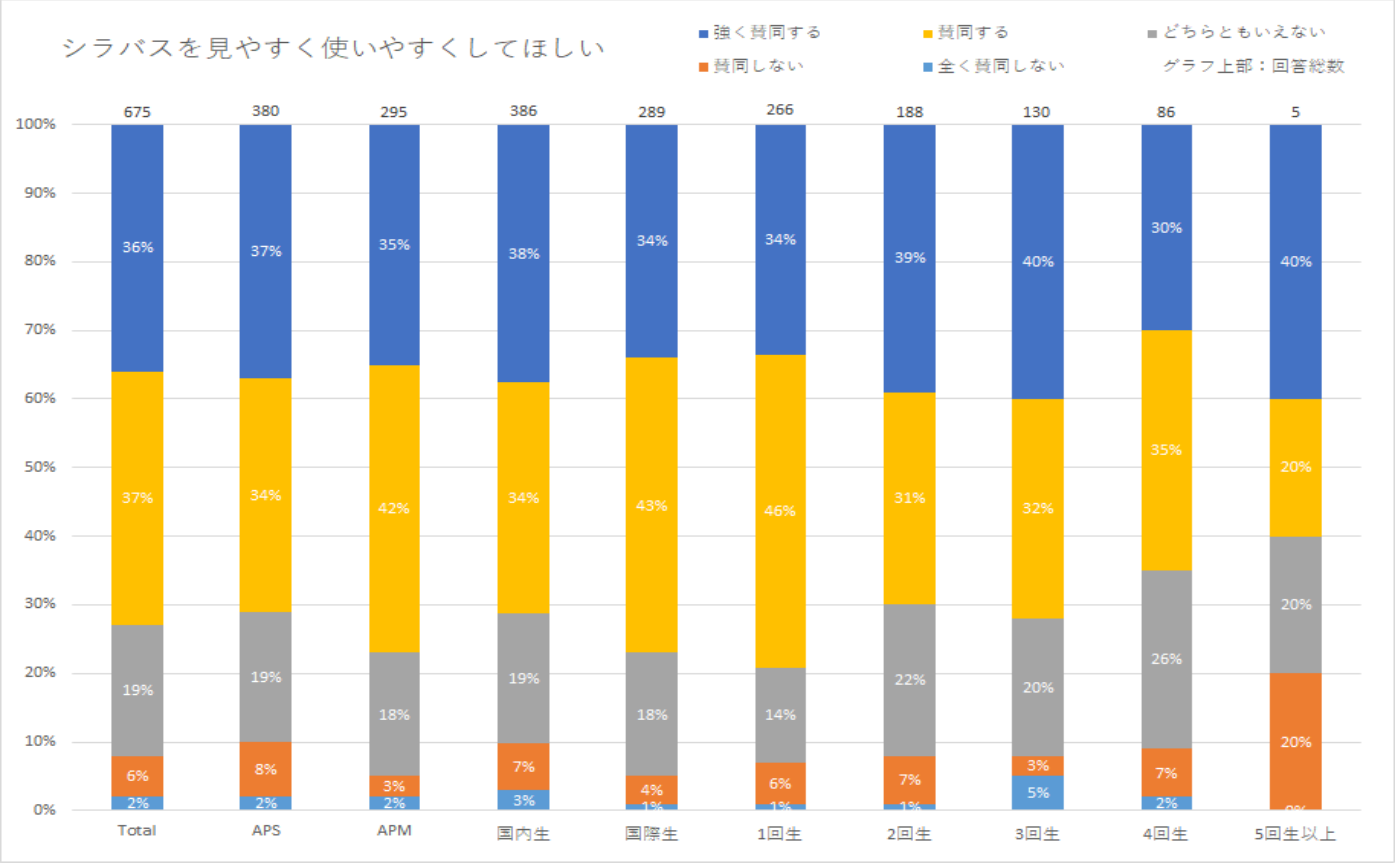
［図 1］「manaba の改善」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



［図 2］「キャンパス・ターミナルの改善」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



［図 3］「シラバス改善」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



II. Learning Support Services

学生の意見　(回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語])

- マナバ
  - 終わった教科を続けて表示することを疑問視している声が上がった。(同様意見 35 件)
  - 先生がマナバ以外のプラットフォームを利用する。(同様意見 14 件)
  - マナバに TA 及び先生のメールアドレスを記載してほしい。(同様意見 3 件)
  - デッドラインや追加情報の通知をしてほしい。(同様意見 9 件)

- キャンパス・ターミナル
  - 使いづらさや、見にくさからアップデートを求める声（同様意見 251 件)
  - 単純に使いづらい。UI が古い(同様意見 134 件)
  - ウェブサイトにいくのがめんどうくさい、億劫(同様意見 23 件)
  - 情報過多であり、見づらい(同様意見 27 件)
  - 就活などと混同されている。別のフォルダで管理したい(同様意見 29 件)
  - サイトが重く、遅い(同様意見 25 件)
  - すぐに再ログインを求められる(同様意見 13 件)
  - 特定の機能の追加を求める声(同様意見 123 件)
  - あなたあての大事なお知らせ、リアルタイムな大学からのお知らせなどは通知で知らせてほしい(同様意見 89 件)
  - 言語変更ボタンの追加(同様意見 5 件)
  - ピン機能やお気に入り機能の追加をしてほしい(同様意見 19 件)
  - 不要なメールを削除したい(同様意見 6 件)
  - 取り消しされたメールの再送をやめてほしい(同様意見 4 件)

- シラバス
  - 検索しづらい(同様意見 42 件)
  - 情報の更新が遅い(同様意見 18 件)

- その他
  - 1 つのアプリにまとめてほしい(同様意見 3 件)

マナバ

マナバについては、すでに更新情報に関する通知がなされており、また UI についても満足していると言う声が上がっている。その中で一番意見されていたのが、修了した講義に関する扱いである。修了した講義に関しては現状では先生がその講義をマナバ上に残すかどうかを判断しておりその扱いは先生による。その扱いを統一してほしいと言う声や、終了した講義を別のフォルダに移行してほしいと言う声も上がっていた。また、他の学生の意見としては、デッドラインの通知や TL 及び先生のメールアドレスの記載、等の細かなアップデートを求める傾向が確認された。また UI 以外に関しては、Microsoft OneNote や Facebook 等のマナバ以外のプラットフォームを利用する先生に関して、大学側にそれらをマナバに統一してほしいと言う

意見や複数のプラットフォームを用いる事は学生にとって複雑であるためやめてほしいと言う意見が確認された。

キャンパス・ターミナル

キャンパス・ターミナルについては、UI の使いづらさや、見にくさに関してそれらを改良することを望む意見が 250 件(自由記述欄のキャンパス・ターミナルについての言及の総数)と大部分を占めていた。その意見の中には、情報、UI が古い、サイトが使いづらい、必要な情報が分かりづらいといった声が含まれていた。また UI のアップデート以外については、特定の機能の追加を求める声が 123 件あった。あなた宛の大事なお知らせやリアルタイムな大学のからの情報についての通知を望む声や必要な情報を整理したいと言う声、必要な情報もしくは不要な情報、取り消された情報、就活に関する情報などをフォルダで分けたいと言う声が上がっているようである。

シラバス

シラバスに関しては、 検索しづらいと言う意見が 42 件と最も多かった。また情報の更新が遅く、履修登録に支障きたすことがあったと言う報告も確認されている。

■ 提言

コロナウイルスが感染拡大により 2020 年度からオンライン授業が開始され、学生間の情報共有は より一層重要性が増している。その一方で学生間のコミュニケーションは、オンライン授業によって比較的減少していると言える。 そのため IT サービスについて 授業のあり方や情報の重要性に基づいて、それら自体のアップデートや 新しい IT サービスによってその環境に適応するとともに、学生の大学生活の向上を計る必要があると考える。そのため、学生の意見をもとにこれからの IT サービスのあり方や、そのアップデートに関して提言する。

a. IT サービスの修正

マナバ

- 終了した講義の表示の削除を可能にする
- TA 及び先生のメールアドレスの表示

キャンパス・ターミナル

- UI の改善
- 再度ログインを求められるまでの時間の延長
- 取り消されたメールの扱いの変更

シラバス

- 検索方法の変更
- 履修登録に支障をきたすことのないような更新の徹底

b. IT サービスの機能追加

マナバ

- 期限や締め切りの通知
- 講義をフォルダなどでカテゴライズできるようにする

キャンパス・ターミナル

- メールや情報をフォルダなどでカテゴライズできるようにする
- ピン機能やお気に入り機能の追加
- 不要なメールの削除を可能にする
- 必要な情報のみ通知機能の追加

c. IT サービスの利用の統一

マナバ

- 終了した講義の扱いの統一
- 課題の提出方法をマナバに統一

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

この提言に関する追加アンケートは行いませんでした。

---

* 立命館大学(2021)「立命館 IT サポート」『立命館大学サイト』(オンライン)2021 年 10 月 12 日アクセス< http://www.ritsumei.ac.jp/rainbow/>

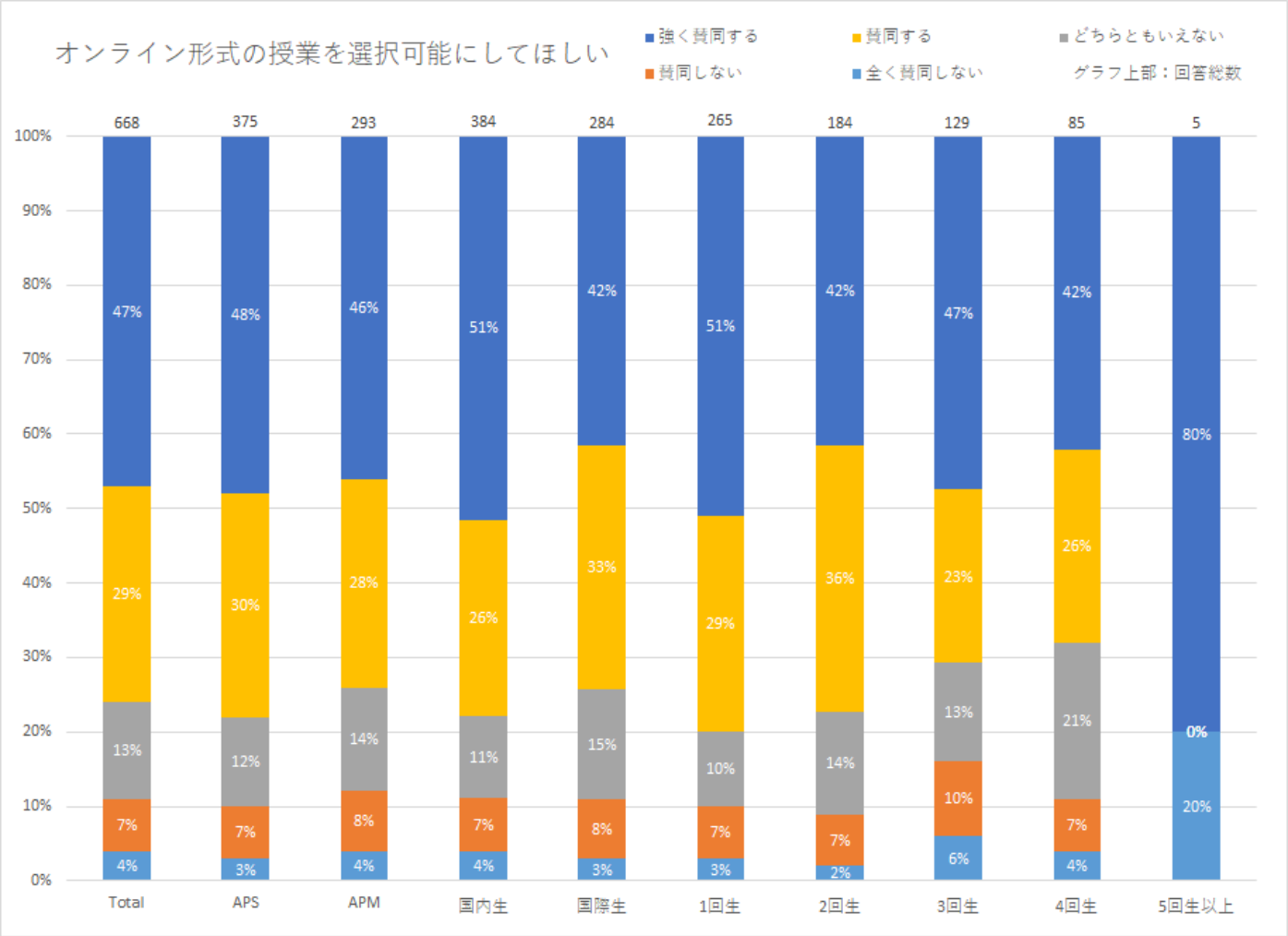
提言 Ⅱ-2 オンライン授業

■ 問題点

1. 今後もオンライン形式を選択できるように残して欲しいか

■ データと現状分析

［図 1］「オンライン形式の授業を選択可能にしてほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



学生の意見 （回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 就活や体調不良の人、また海外にいる生徒がキャンパスに行かなくても家で授業を受けることができるので選択肢を消さないでほしい （同様意見 13＋6 件）
  - 移動時間を短縮することができるため時間を有効活用できる（同様意見 4＋0 件）
  - 全ての授業がオンラインで行われているミネルバ大学や University of the people などがあり、オンライン授業だけでも十分な理解を深めている。よって形式ではなく授業の質を上げると良いのではないか（同様意見 1＋0 件）

- コロナが怖いため（同様意見 6＋2 件）
- コロナによりオンライン授業にという新しい授業形態が増え、利点がたくさん見えたから今後も実施すれば良いのではないか （同様意見 3＋2 件）

- 「どちらともいえない」
  - 受けている授業のほとんどがオンラインのため比較できない（同様意見 1＋0 件）
  - オンラインメインの学生と対面メインの学生がいても良いのではないか（同様意見 2＋0 件 ）
  - オンライン授業を残すことに賛同するが対面授業を推し進めないとキャンパスに活気が戻らないのではないか（同様意見 1＋0 件）
  - オンライン授業に賛同するがオンラインだと自分が怠けてしまうのでわからない （同様意見 0＋1 件）

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - オンラインだと全く大学に来なくなる生徒も出てくるし, APU の国際的環境を取り戻すのであればオンラインの選択を作るべきではない。（同様意見 2＋0 件）
  - オンラインは確かに面倒な面もあるが、集中力なども含めたらオフラインがいい （同様意見 1＋0 件）
  - 就活がありオンラインで授業を受けるというのは賛成だが、教育において仲間や教授と直接的な交流をする必要があると思うので特別な理由がない限りオフラインにすべき。（同様意見 0＋1 件）

多くの学生が(全体の 76%)がオンライン授業をこれからも選択可能にすることに対して賛成している理由として、「就活や体調不良の人、また海外にいる人も授業を受けやすい」(同様意見 19 件)と言う意見や、「せっかく新しくできた授業形式であり、良い点が見られたので消さなくても良いのではないか」(同様意見 5 件)と言う現状がある。それに伴い、「集中力がもたない」「学校に活気が戻らない」(同様意見 3 件)と消極的な意見もあることがわかる。

では他大学ではどのような授業形態があるのか。現在 APU では授業がオンライン授業もしくはハイブリット型授業で実施されているが、同じ学校法人である立命館大学と比較してみると、立命館大学[10]には対面授業、オンライン授業とオンデマンド授業がある。オンデマンド授業に関して学生は「自分のペースで学習できるためよかった」、「理解しやすく楽しく受けられるようになった」という意見やがあった。

就活や風邪の際にオンラインだと良いという意見が見られたがもし欠席したらどうなるのか。欠席について APU はどのような基準を定めているのか。APU[11]では怪我や病気で 1 週間から 3 週間程度の欠席が必要な場合医師の診断書または医療機関受診証明書と治療費領収書があるとオフィスに申請することができる。また忌引きの場合は 1 親等な場合日祝日を含め 7 日以内、2 親等は日祝日を含め 5 日以内であり、かつ会葬礼状や死亡公的証明書があれば申請することができる。長期の欠席を申請した場合、そのクオーター、セメ

[10] 立命館大学(2021)「2021 年度の授業について」『立命館大学学び支援サイト』(オンライン)2021 年 10 月 11 日アクセス< http://www.ritsumei.ac.jp/pathways-future/course/web-based.html/>

[11] 立命館アジア太平洋大学(2021)「授業欠席」『Academic Office』(オンライン)2021 年 10 月 11 日アクセス < https://www.apu.ac.jp/academic/page/content0016.html/?c=17>

スターまたはセッションに登録している科目全てを取り消すことができる。もし全授業数の 4 分の 3 以上出席しないと単位が認められない。

■ 提言

オンライン授業はコロナウイルスの蔓延により 2020 年から始まった。当初はウイルスの蔓延に対応するための授業形態だったが、この形態には上述のように多くのメリットがある。確かに大学は対面授業で学びやすい環境を提供してきたが、環境に応じて学ぶ場所や方法の選択肢を増やすことで、より多くの人に学ぶ機会を提供でき、学生も効率的に学ぶことができる。体調不良や就職活動などで学生が欠席すると、授業についていけなくなり、学習に支障をきたすこともある。

オンライン授業やハイブリッド授業の利点と、対面授業の欠点を組み合わせて、今後の授業形態を次の通り、提案する。

a. オンライン授業を選択できるようにする

- 学費の中に学校施設の利用なども含まれているため授業形態の中で対面授業の選択肢は必ず残す
- 就職活動などでスケジュール調整が難しい人や、体力的に弱い人もいるので、ハイブリッド授業、オンライン授業、オンデマンド授業などを用意する

b. オンデマンド授業を取り入れる

- オンデマンド授業では学生が取り組んでいる姿が目に見えず、動画を見ずに真面目に取り組まない学生もいるかもしれないのでオンデマンド授業の課題を多めにする
- 全員の学びの到達点を均等にするために期末テストやレポートは対面授業であろうがハイブリット授業であろうが一緒にする

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

この提言に関する追加アンケートは行いませんでした。

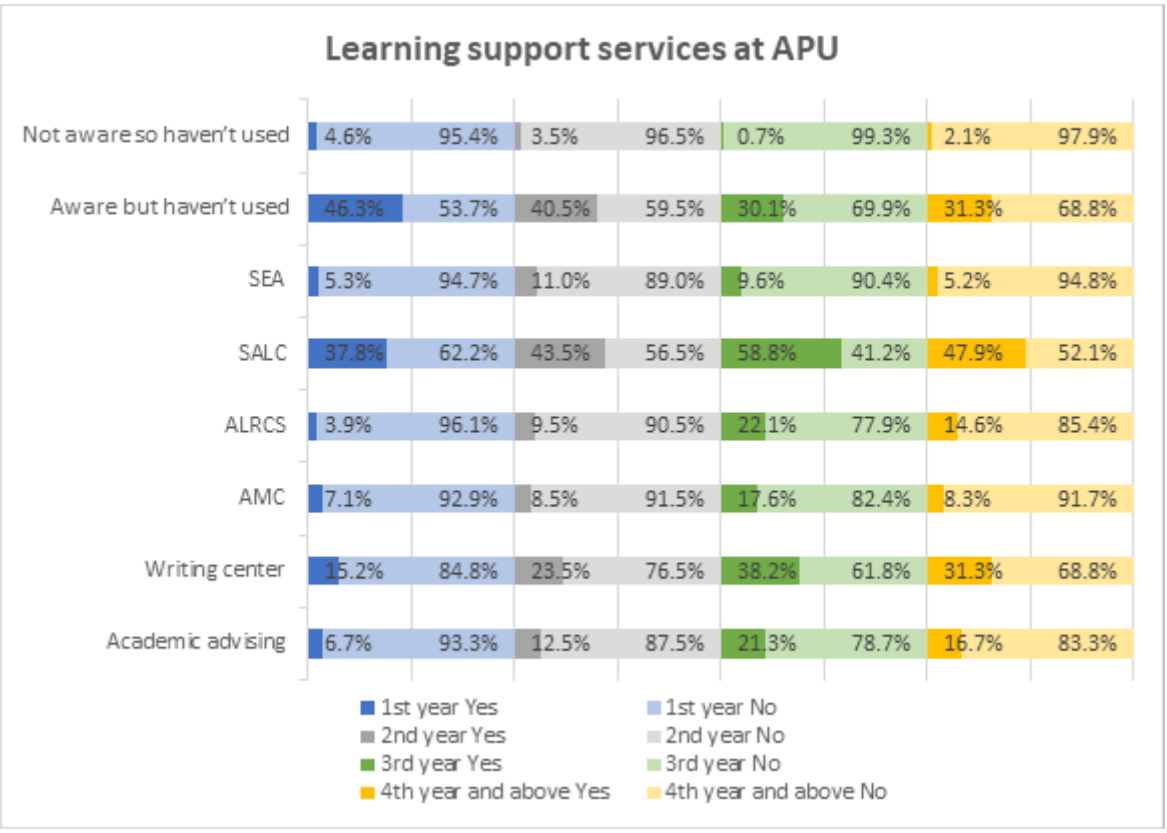
提言 II-3 APU での学習支援サービス

■ 問題点

1. 学習支援サービスを推進する上での体系的かつ一貫したアプローチができていない
2. サービスに関して統一されていないことと情報へのアクセスのしにくさ
3. 学生がサービスを利用するための動機不足

■ データと現状分析

［図 1］「APU での学習支援サービス」の利用頻度（はい/いいえ）（縦軸は%）



学生の意見 （回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - APU が提供するこれらのサービスの品質は良い/役に立つ/有用である（同様意見 49 件）
  - 品質が良いと思う（同様意見 7 件）
  - SALC は、言語を学び、実践するための素晴らしい環境である（同様意見 17 件）

- 「どちらともいえない」
  - SALC が他の AP 言語、特に韓国語（同様意見 8 件）のためのサービスを開いてほしい
  - より専門的なサポート、またはより多くの主要な科目（例えば、財務、会計）のサポートを充実させてほしい（同様意見 5 件）

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - サービスの認知度の必要性（同様意見 14 件）
  - サービスの予約方法がわからない(同様意見 7 件)
  - サービスがオンラインに移行すると利用しない（同様意見 6 件）

今回のアンケート結果から、APU での学習支援サービスの全体的な利用率は比較的低いことが分かる。さらに、他のサービスと比較して、Self-Accessed Learning Center の利用率は他のサービスに比べて高いことが分かる。

学習支援サービスの質を高めることに対してほとんどの学生は品質に満足していると主張した。SALC の最高の使用率に合わせて、SALC を使用する際の学生の経験も肯定的であると見なされる。詳細には、SALC は彼らが興味のある言語を練習するための素晴らしい環境であり、そこの学生スタッフ(PA)はフレンドリーで愛らしいと思う。SALC が他の AP 言語、特に韓国語のサービスを開くという要求がある。さらに、一部の学生は、彼らの言語インストラクターが導入したり、クラスでのサービスの使用を奨励したりしたように SALC について知っていたので、彼らはサービスを予約し、使用するために強いプッシュを持っている。

主要科目(財務、経理など)のサポート、インストラクター/専門家(学生以外)からの専門的なサポート、より専門的なサポート(学部生が学術研究の質を向上させる博士課程の学生など)など、より多様な種類の学術支援サービスが求められている。

サービスについて知っているが、それらを使用していない人のために、彼らは使用することをためらっている。第一に、これらのサービスが直面している学術的問題を解決できるかどうか、またはそれぞれのサービスの役割について明確に理解していないかわからないため、これらのサービスを使用する必要性を感じられない。第二に、これらのサービスに関する情報(営業時間、予約方法など)の非対称性からもためらわれている。また、特に APU に行ったことがない新入生にとっては、一度オンラインに移行したサービスのアクセシビリティに関する一般的な懸念事項も注目に値する。

調査回答者の間で一貫した考えは、学術支援サービスは、大学からのより一貫した、広範かつ平等な昇進支援を必要とすることである。現在 SALC は最も露出が多いが、他のサービスでも同じ状況は見られない。

■ 提言

a. 学習支援サービスと学生ソーシャルメディアユニット(SMU)とのコラボレーション

ソーシャルメディアでの学習サポートサービスのプレゼンスを改善し、標準化する場合、各組織は、SMU メンバーと直接協力する PR スタッフを表す 1 人を持つ必要がある。このコラボレーションは、(1)プロモーション戦略計画と(2)プロモーション資料の改善の観点から役立つ。

- プロモーション戦略:各学習支援サービスは、休憩の開始時に学期ベースプロモーション計画を考え出す必要がある。これには、SNS の投稿を通じてどのような情報を伝えたいか(例えば、イベント発表、組織紹介など)、投稿する頻度(週に 1 回など)、どのようなブランドイメージをアピールしたいか(例えば、プロ、クローズなど)が含まれる。）と、その学期内に達成したい KPI（例えば、リーチを 300% 増加させる） と同様に、その後、組織はこのタイムラインを立ち上げ、SMU メンバーと意見を問い合わせ、適切な調整を行うことができる。確定したら、組織はこの計画の実行にコミットする必要がある。

- プロモーション資料:組織は自分の経験を活用して、 成功したソーシャルメディア投稿の例を投稿することができる。SMU メンバーは、アーカイブされたフォルダにこれらの資料を統合し、学期を通じて参照できるマニュアルを作成するのに役立つ。システムが十分に効率的であれば、学期ベースのトレーニングセッションに発展させることができる。このセッションでは、2~3 の組織の PR スタッフと SMU メンバーが、成功したプロモーション資料の例について共同で紹介することができる。

b. アクセス方法とサービスの可用性を知らせるウェブページの作成

学習支援サービスに関する学生の意識と情報のアクセシビリティを向上させると、ユーザーフレンドリーで、ナビゲートしやすく、更新されたセクションが必要である。

- 現在のマスタ情報シートを、必須アイテムを含む専用の Web ページに詰め込む: 概要、営業時間、および予約方法。メインターゲットや問い合わせ先、住所などのその他の詳細情報は、組織のそれぞれのページに表示される。さらに、1-2 語(VPN、言語サポートなど)で各サービスの専門分野を特徴とする「キーワード」という特別なセクションを追加して、ナビゲーションを高速化する必要がある。
- チャットボットを作成する場合、助けを求めているが、どのサービスを訪問すべきかわからない学生とリアルタイムでやり取りできる。チャットボットは、後でライブラリまたは AP House のコンピュータルームに配置して、より便利なアクセスを可能にする。
- APU Facebook ページ(投稿)、APU ウェブサイト(ホームページ上の固定セクションとして)、マナバ(現在のカオスメニューを置き換える右パネルの固定セクションとして)、APU タイムズ(注目の記事として)のような他のプラットフォームにショートカット URL /アイコン/QR コードを組み込む。

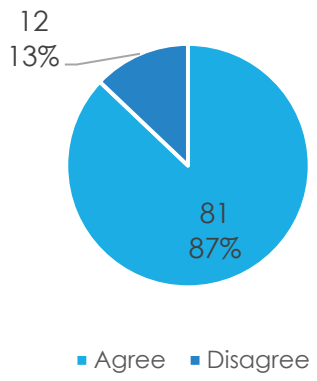
c. 講師と協力して学習支援サービスの利用を奨励する

学習サポートサービスを利用するインセンティブを高め、サービスが役立つ状況を正確に示すために、アカデミックオフィスは次のことを検討することができます。

- APU で利用可能な学習支援のリストをコースの講師に紹介し、講師が教えているコースに役立つことを述べる。
- オンラインシラバス(キャンパスターミナル)に「参考のための学術支援サービス」というラベルを付け、学生に役立つサービスに名前やチェックマークを追加するよう講師に依頼する。
- 授業初日、またはサービスが役立つ特定の状況(例えば、長いレポートと高品質の文章を提出する必要があり、正確な引用が必要である)に、これらのサービスの使用を強化するよう講師に親切に依頼する。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

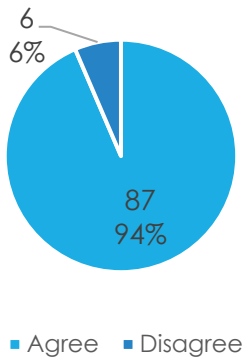
［図 2］提言 a：学習支援と SMU のコラボレーションに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



学生の意見　（回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- アンケート回答者の 87%が提案に賛成している
- サービスを知っている人は問題ないと考えており、知らなかった人は良い取り組みだと考えている

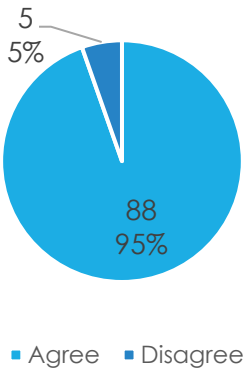
［図 3］提言 b：アクセス方法とサービスの可用性を調べるウェブページ作成に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



学生の意見　（回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 学習支援サービスに関する情報をキャンパス・ターミナルに掲載するのは、操作性が悪く、見づらい
- 現在公開されているウェブサイトに学習支援サービスに関する総合的な情報を統合した方がよい

［図 4］提言 c：講師と協力して学習支援サービスの利用を奨励することに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



III. Facility (Cafeteria)

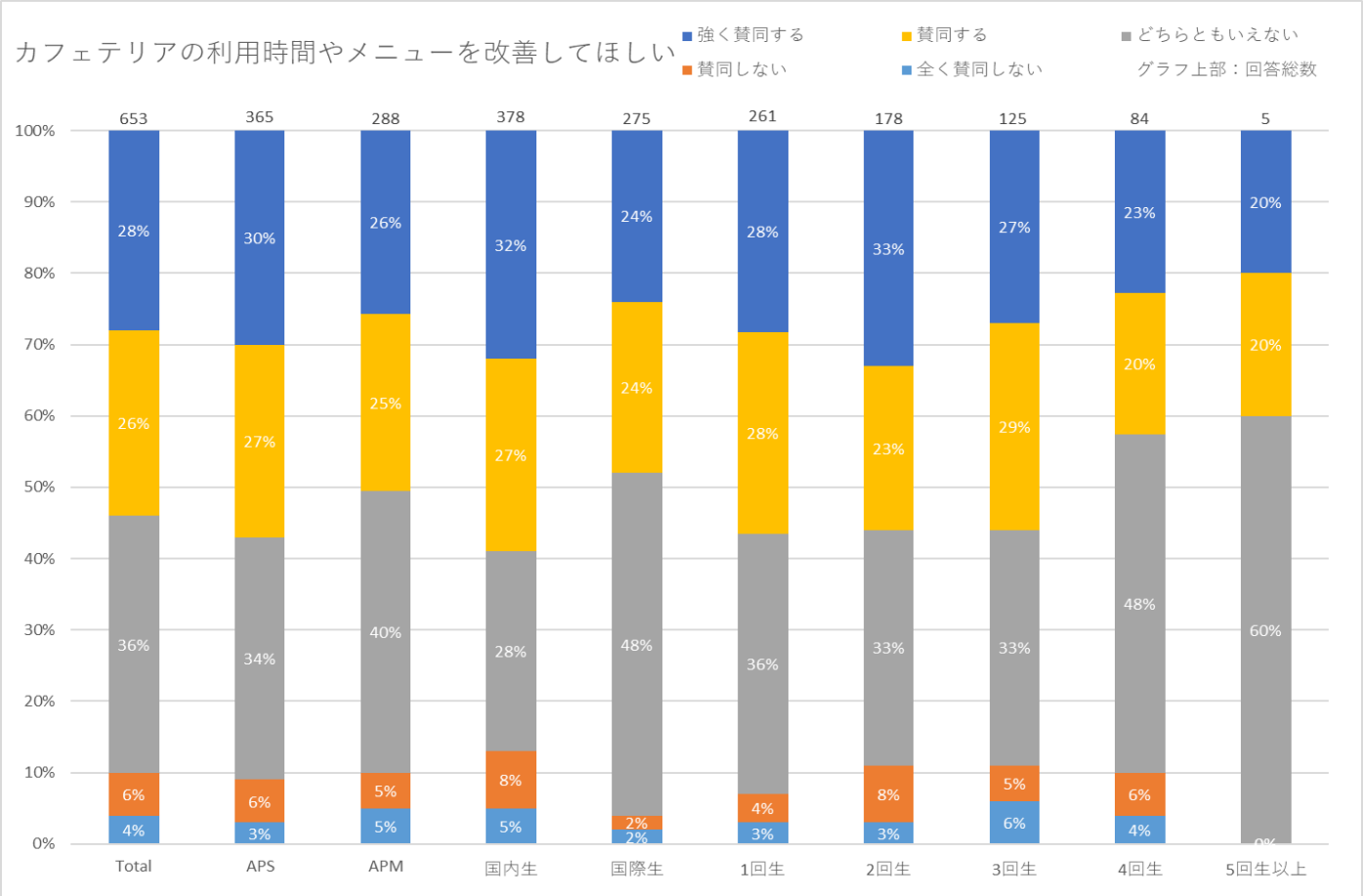
提言 Ⅲ-1 カフェテリア

■ 問題点

1. 学生とカフェテリアのコミュニケーションは必ずしも十分とは言えず、双方の思惑が食い違うことがある
2. 「学生が健康的な食事を取ることができているか」という包括的な問題について、APU CO-OP およびカフェテリア、ならびにアドミニストレーション・オフィスが協同して対処する必要が認められる

■ データと現状分析

［図 1］「カフェテリアの利用時間やメニューを改善してほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



全回答者のうち、「賛同する」または「強く賛同する」を選択した学生の割合は 54%である。また「賛同しない」や「全く賛同しない」を選択した学生の割合が相当に低いことが見て取れる。これは、カフェテリアの改善はほとんどの学生にとって何らの不利益をも生じないことから、特に要望を持たない学生の多くが「どちらともいえない」を選択した帰結であると思われる。

学生の意見　（回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」

- メニューの多角化（同様意見 37+26 件）（更新頻度を高めて欲しい、毎日同じものばかりで飽きてしまう。揚げ物が多い、野菜など健康的なメニューを求める。ハラル、ベジタリアン、ビーガン、アレルギー学生は選択肢が少なく十分な栄養を摂取することが困難である）
- 営業時間の改善（同様意見 22+14 件）
- 値段が高い（同様意見 2+10 件）
- 湯茶の設置（同様意見 1+0 件）

- 「どちらともいえない」
  - キャンパスに行かないのでカフェテリアを利用していない（同様意見 8+23 件）
  - メニューの多角化（同様意見 5+5 件）
  - 現状のサービスに満足（同様意見 2+8 件）
  - 値段が高い（同様意見 0+1 件）
  - カフェテリアの施設改善（コンセントの数を増やしてほしい。Wi-fi の接続状況の改善）（同様意見 2+0 件）
  - 湯茶の設置（同様意見 1+0 件）
  - 残食材の販売要望（同様意見 1+0 件）

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 現状のサービスに満足（同様意見 6＋1 件）
  - メニューの多角化（同様意見 1+0 件）
  - 営業時間の改善（同様意見 1+0 件）

他方、カフェテリア、アドミニストレーション・オフィス、APU CO-OP へのヒヤリングから、次の工夫や現状が伺われた。

- カフェテリア
  - 管理栄養士の監修の下、小鉢などを盛り込んだ取り合わせを提案するなど、「食育」の観点から啓発を試みている
  - 最近のデータによると、麺や丼物を単体で選ぶ学生が多い。副菜（小鉢など）やデザートは平均して 1 人当たり約 1 点を取っている計算になるが、必ずしも野菜類を選んでいるわけではない
  - カフェテリアには「学生委員」がおり、前述のような啓発活動に関連して、チラシ等を用いて広報をおこなってはいる。しかしながら、せっかく作成したチラシも学生に利用してもらえているとは言い難い

- アドミニストレーション・オフィス
  - 対面授業が実施されていた当時、近郊の食品事業者とタイアップしてフードトラックを誘致していた
  - これまで、学生側から問題意識を寄せられることはあっても、具体的な対案の提示に至ることはほとんどなかった。今後学生とのコミュニケーションを密にしていくうえで、学生としても積極的に具体案を出してほしい

- **APU CO-OP**
  - コロナ禍で経営が厳しい中、先般導入した「100 円朝食」がある
  - （学生の声プロジェクト担当者が例示した案としての）教室棟などでの弁当類の移動販売は、良いアイデアのように思える。試験的に導入して、学生のニーズがあるかどうかを計ってみたい [12]

以上のことから、APU CO-OP・カフェテリア、アドミニストレーション・オフィスのいずれも、学生の視点に立ってより良いサービスや環境を提供しようという意思を有し、日々の業務を行っていることが見て取れる。他方で、学生がそのような取り組みを認知できていない点や、学生のニーズが直接届く仕組みが存在しない点につき、改善の余地が認められる。

■ 提言

カフェテリア、アドミニストレーション・オフィス、APU CO-OP へのヒヤリングを踏まえ、以下を提言します。

a. カフェテリアやアドミニストレーション・オフィスは、APU CO-OP のショップの取り組み例を参考に、学生のニーズを聞き入れる仕組みを設け、得られた意見やそれに対する回答を公開する

これにより、学生のニーズを考慮した運営を行うことができる。また、学生とのコミュニケーションの円滑化を図ることは、双方の信頼関係の醸成に資する。

b. 特にカフェテリア・APU CO-OP は、学生委員と協働して、上記提言 a. の実施に際し得られた学生の意見を集約し、それらを考慮して運営指針を策定する。また、自己の取り組みについての広報を強化し、既存の媒体（チラシ・生協ウェブサイトなど）に加え、キャンパス・ターミナル等の利用を通じて学生へのさらなる周知を図る

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

この提言に関する追加アンケートは行いませんでした。

[12] APU CO-OP には、このヒヤリングを受けて、実際に F 棟での弁当類の移動販売を 11/15~19 の間、期間限定で開始していただいた（詳細：https://kyushu.seikyou.ne.jp/apu/news_im/news_detail_2840.html）。「学生の声」に対する親切かつ迅速な対応につき、この場を借りて感謝申し上げます。

IV. International and Educational Exchange

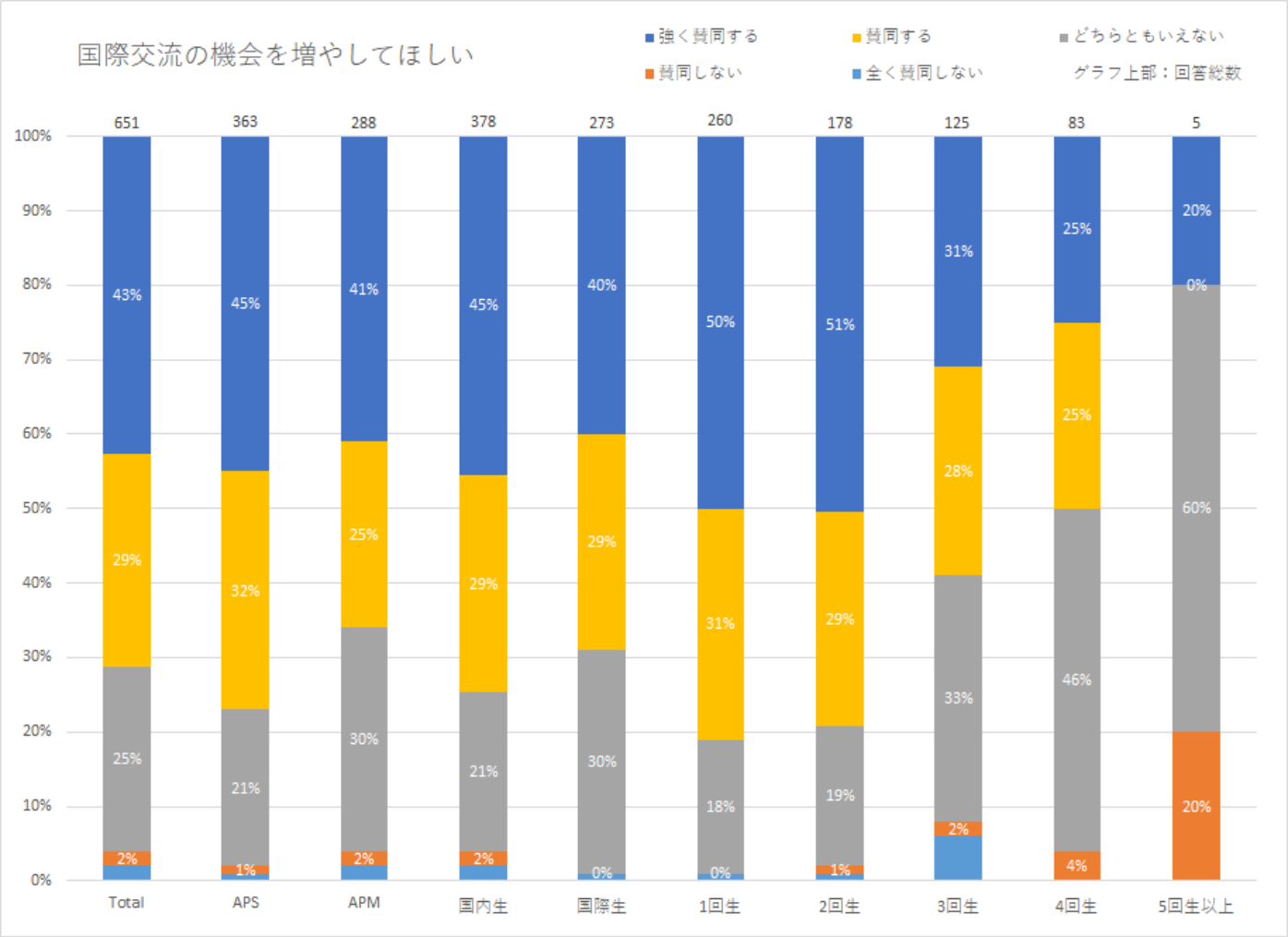
提言 IV-1 国際交流

■ 問題点

1. パンデミック時の国際交流の機会が以下の理由により不足
   a) 一部の学生が日本に入国できない b)多くの交流プログラムが中止になった
2. 留学生のための留学奨学金支援の不足

■ データと現状分析

［図 1］「国際交流の機会を増やしてほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



学生の意見 （回答総数???= ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 国際交流・留学のための奨学金を増やしてほしい(同様意見 5+1)
  - 自分の交換留学が中止になってしまった(同様意見 4+3)
  - 日本人学生と留学生が交流する機会が少ない(同様意見 11+15)

- どこにチャンスがあるかを知るためにイベントが必要だ(同様意見 13+13)

- 「どちらともいえない」
  - 大学への国際交流の機会は十分にあると思う(同様意見 6+4)
  - 高校時代に交換留学をしていた私にとって、大学での学びのレベルにおいて、適応はもう楽しみではない。私は将来のキャリアのために、関連する活動をすることで機会を探しているが、留学生交流はその役割を果たさない。APU が「学生交流」に焦点を当てるのではなく、学生の比率を改善し、より「国際的」な環境を作ることができれば、より評価できる
  - 現在のコロナウイルスの流行の状態で交流を深めるのは少し難しいかもしれない
  - すでに存在していても、あまり知られていないと思うので、キャンパス・ターミナルでの情報表示の仕方を改善するのが一番である

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 自分で機会を作れるので問題ない
  - 現在の状況で全く問題ない
  - 国際交流にあまり興味ない
  - 交換留学といっても、結局はオンラインで終わるだろう

現在、APU は世界 43 カ国の 150 大学(オランダ、韓国、中国、ドイツなど)と提携していて、学生は自分の興味のあることに合わせて様々なコースに参加することができる。各コースの留学期間は 1 セメスターまたは 1 年間で、この交換プログラムで取得した単位は全て APU に移行される。APU アカデミックオフィスによると、このような交換留学プログラムに参加する学生は、APU の授業料のみを支払う必要がある。しかし、現在の COVID-19 パンデミックの影響で、これらの交換プログラムの多くがキャンセルされており、レベル 2 の警告システムである国への留学のみが可能となっている。

上記のコース以外にも、APU で授業を受けながら他大学で学ぶことができる「ダブルディグリープログラム」があるが、コロナの影響で学生が留学先の大学に行くことができない可能性がある。

さらに、学生は APU 在学中に海外の大学で短期のサマープログラムやウィンタープログラムを楽しむことができる。これらのプログラムは APU が主催しているため、交換後の単位は全て APU に移行される。しかし、学生はセメスターの中でクオーター2 の授業を受けることはできないため、これらのプログラムに応募する学生はあまり多くない。

APU では、学生の皆さんへの大きなサポートとして、交換留学のための様々な種類の奨学金を提供している。まず一つ目は、APU 授業料減免奨学金です。他の大学との交換留学であっても、この奨学金を持っている学生は、授業料が 100%、80%、65%、50%、30%減額される。そのほか JASSO は国際交流を希望する国内の学生に奨学金を提供しているが外国人留学生にとっては、深く探さないと奨学金を見つけるのは難しいかもしれない。これらの学生に経済的支援を行なっている日本の財団は数多くあるが、それぞれのプログラムのテーマによって条件が異なる。交換留学に関する相談はアカデミックオフィスの交換留学のチームのプライベート・コンサルテーションに、Zoom ミーティングを通じて依頼することができる。

■ 提言

a. 言語パートナーシステム

現在、APU は主に国内学生と国際学生に分かれている。国際学生の交流を有意義なものにするために直面する最大の問題の一つが、言語の壁である。

皆さんもご存知のように APU の学生は、国内学生・国際学生の区別なく英語または日本語の授業を受けなければならない。そして、多くの学生が、授業で学んだことを通常の会話の場で実践することが難しいという意見を持っている。そこで、オリエンテーションの週に、各学生が 1 人または 2 人の国内・海外の学生を紹介するプログラムを作れば、語学学習の成功だけでなく、有意義で永続的な国際交流ができるようになる。

このプログラムを実行するには、男性は男性で、女性は女性である必要があります。1 つ目の理由は潜在的なセクシャルハラスメントを防ぐためです。もちろん、同性間のセクシャルハラスメントに比べれば、その発生率は大幅に減少する。2 つ目の理由は、学生は同性の人と 1 対 1 で接することに安心感を覚えるので、プログラムの受け入れ率や利用率が高くなるということである。

このプログラムでは、単に学生同士を紹介するだけで、その後の関係を継続するかどうかは学生次第である。この提案は、APU BUDDY プログラムと同じように、学生同士を結びつけ、有意義で継続的な交流の可能性を持つ環境を作るという考え方の流れを持っている。しかし APU BUDDY プログラムが交換留学生のみを対照しているのに対しこの新しい言語パートナー制度は全ての学生を対象にしている。しかし、このようなシンプルな方法で国際交流の機会を提供するだけでも、学生の間に大きな変化をもたらす可能性がある。最後に、各学期終了後に学生に簡単なアンケートをお願いし、このプログラムが役に立ったと思うかどうか、今でも言語パートナーと話しているかどうかを尋ねることで、このプログラムの生産性を確認することもできる。

b. クラブの可視化とアクセス性

現在、自分の興味のあるクラブの誰かと入部や情報収集についての連絡が取りづらいです。連絡が取りづらい要因は、学校から発行されている「課外活動」の冊子にも、APU が提供している公式オンラインソース https://en.apu-online.jp/?club_filter=all#clubs（2021）にも、明確な連絡先がほとんど記載されていないことである。連絡先を知れる手段として Facebook や Instagram によるグループのソーシャルメディ・アカウントがある。

私たちが提案するのは、クラブのリストを作成し、このリストをキャンパス・ターミナルの新しいタブに掲載し、クラブに関する問い合わせや入会のための連絡先を記載することである。連絡先として、最適なのはクラブが指定したリクルート用の E メールアカウントの仕事用 E メールや APU の E メールだが、この E メールアカウントの詳細は次の段落で説明する。

個人の E メールアカウントをインターネット上に掲載すると、そのアカウントの所有者がフィッシングや詐欺メールに晒される可能性がある。このような可能性を考慮し、募集の問い合わせを受けることを唯一の目的として、各クラブに E メールを作成することを提案する。この E メールアカウントは、クラブの代表またはクラブ内の指定された人が担当する。またこれらのリストはキャンパス・ターミナルの新しいクラブリストに掲載されるため、APU の承認を受けた人だけがこれらのメールリストにアクセスすること

ができるようになる。これらの 2 つの方法により、問い合わせを受ける側の個人に被害が及ばないように対策する。

この提案により、勧誘やミーティングがないに等しいコロナの時代に、APU メンバーの誰もが簡単にクラブに連絡できるようになる。学生が APU にある全てのクラブと簡単に連絡を取ることができるようになることで、APU がすでに提供している活気に満ちた多様なクラブと学生の間の国際的な交流を促進することができると考えている。

c. 国際交流プログラムと奨学金の説明

このチームがお手伝いできる最善の方法は、すでに確立されている交換プログラムや奨学金の認知度、知名度、利用度を高めることだと考える。国際交流プログラムについては、すでに APU は非常に充実したウェブサイト https://en.apu.ac.jp/academic/page/content0105.html/?c=17(2021)を持っており、最新の学生交換プログラムの目的リスト、相談窓口、国際交流のための奨学金情報などの主要なリソースを提供している。また APU(2021)によると、「参加者募集ガイダンス」では、「現在募集している大学のリスト、必要な言語、選考方法、交換留学にかかる費用、奨学金情報、交換留学中の成績の扱い、4 年間の学習計画に交換留学を組み込む際の注意点」などを説明している。しかし、2021 年 9 月上旬現在、最後に開催された参加者募集説明会は、ホームページによると、2021 年 4 月 14 日の 6 限に開催された。つまり、最後の総合説明会が開催されたのが約 4 ヶ月前ということになる。また、今後の別の参加者募集説明会の日程も記載されていない。

交換留学プログラムに関する資料は為になるが、学生がその情報に気づいていなかったり、アクセスする方法を知らなかったりということがある。そこで、私たちは学生のスケジュールに合わせて、月に一度、異なる時間帯に説明会を開催することを提案する。この説明会では、学生が交換プログラムについて調べる際に役立つ情報や関係する様々な事務所の連絡先、プログラムの一般的なスケジュールや概要などを説明する。この説明会のポイントは、簡潔であり、年間を通じて様々な学生が利用できること、そしてたくさんの学生に留学に関しての情報を知ってもらうということである。

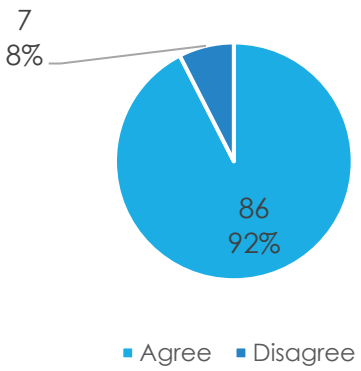
学生が理解しやすいように「参加者募集説明会」「個別相談会」「新規交換留学プログラム説明会」で区切り、例えば参加者募集説明会と個別相談会は具体性の高い情報を提供したりして、それぞれに沿った情報を提供する。新規交換留学プログラム説明会では、一般的な情報や連絡先などの基本的な情報を紹介する。私たちは基本的な情報を多くの人に届けることができれば、同じ人たちがより詳しい情報を個人的に相談するのではないかと考えている。

奨学金は https://en.apu.ac.jp/studentsupport/page/content0037.html/(2021)に詳しく記載されており、利用可能な奨学金に関する情報を数多く提供している。このように提供しているのにもかかわらず学生に届いていないということから、ホームページの可視性やアクセス性、利用性に問題があることがわかる。

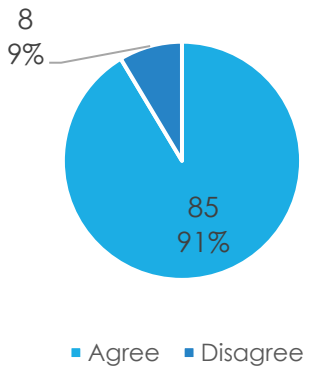
交換留学プログラムと同じ形式で、月に一度、重要な情報や具体的な「情報の入手方法、様々な連絡先を紹介する説明会を開催すれば、多くの学生が様々な奨学金について必要な情報を入手し、申請を提出できる。また、この説明会を毎回違う時間帯に開催することで、いずれかの説明会に予定が合わない学生でも自分のスケジュールに合わせて進行中の説明会に参加できる。このようにしてできるだけ多くの学生に情報を行き渡らせ、全ての学生がアクセスできるようにする。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

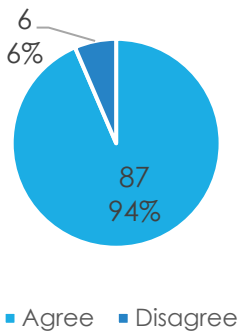
［図 2］提言 a：言語パートナーシステムに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 3］提言 b：クラブの可視化とアクセス性に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



［図 4］提言 c：国際交流プログラムと奨学金の説明に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



交換留学プログラム・留学のための奨学金についての説明会の定期的開催。 全学生が参加できるように、毎月異なる時間帯に説明会を開催することを提案する。この説明会では、学生が交換留学プログラムを調べる際に利用できるリソースや、関係するさまざまなオフィスの連絡先、プログラムの一般的なスケジュールや概要などのトピックを取り上げる。

学生の意見　（回答総数?? = ??[日本語] + ??[英語]）

- コロナの影響もあるかもしれませんが、留学が遠い存在にあるように感じます。(同様意見 1+0 件)
- すでに開いているとは思いますが、説明会の回数を増やすことは大事だと思います。（同様意見 1+0 件）

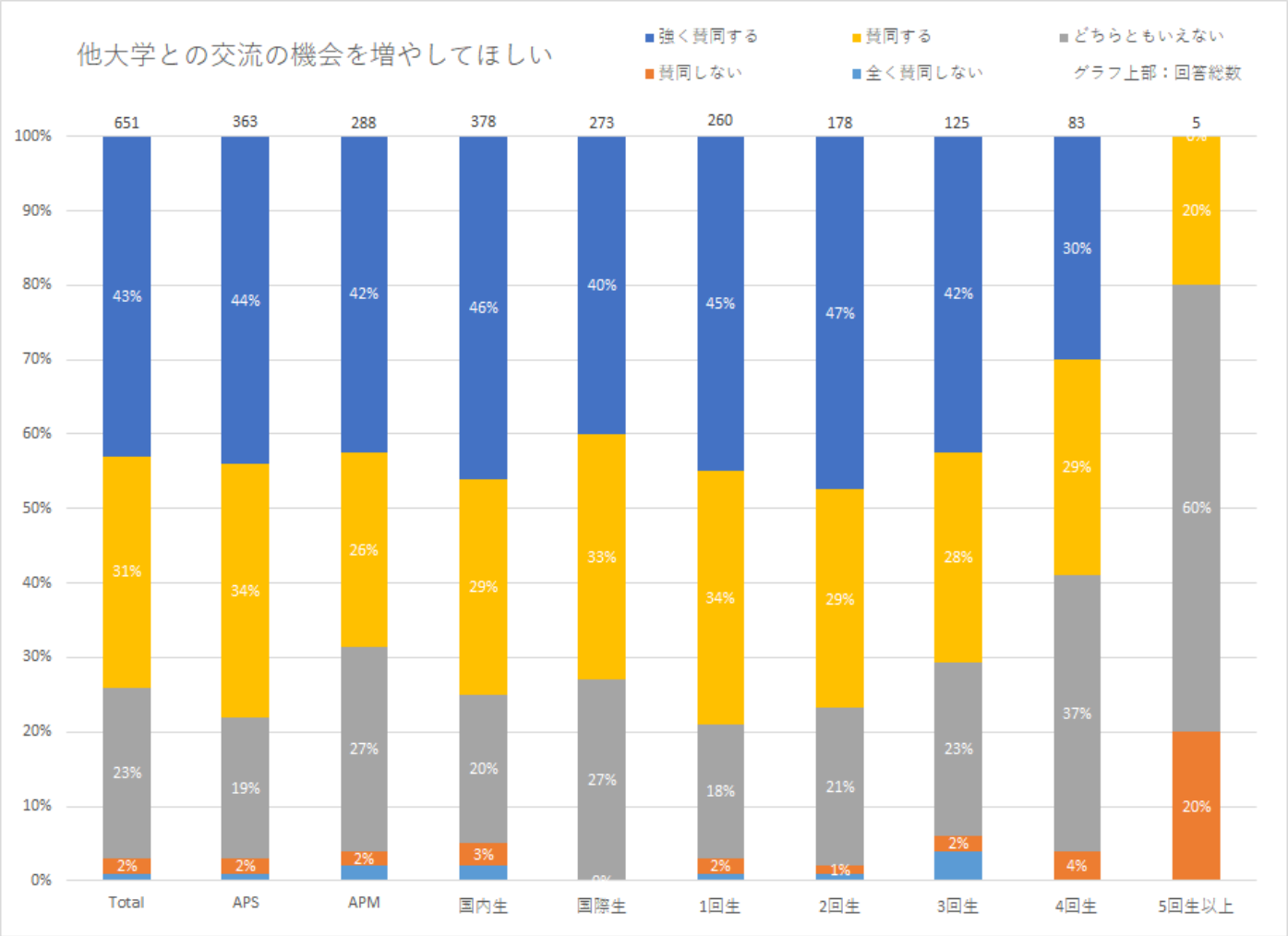
提言 IV-2 国内交流

■ 問題点

1. 学生は日本国内の大学との交流を勉学、課外活動ともに望んでいる

■ データと現状分析

［図 1］「他大学との交流の機会を増やしてほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



1 年生が最も意欲的で、他大学の学生との交流が必要であることに強く同意しているが、4 年生の多くは同意も反対もしていない。

学生の意見 （回答総数??? = ???[日本語] + ???[英語]）

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - 大分大学、別府大学、別府や大分市内の高校生、立命館大学や日本の他の大学との交流や友達作りをもっと活発にしてほしい(同様意見 26＋9)
  - ボランティア活動、異文化交流サークル、スポーツクラブなど、他の大学の学生と一緒に活動するサー

クルがあればいいと思う（同様意見 6+2）

- APU が提供していない授業や科目について、他大学との単位互換制度を拡充してほしい（同様意見 1+2）

- 「どちらともいえない」
  - これまで、公式に行われている交流会などにあまり参加したことがないので、まずは自分自身の特性やコミュニケーション能力を伸ばすほうに注力したい
  - キャンパスの地理的特性上、他大学との交流が難儀なのは理解している。もっとも、だからこそオンラインでの交流の機会を増やすべきだとも思う

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 仮に新たな交流の機会が設けられたとしても、参加するかわからない

国内の交流では、APU は立命館大学と国際教養大学と密接な関係にある。立命館大学は京都府にあり、夏期講習では日本語による授業を行っている。しかし、交換留学生は上級レベルの日本語能力を身につけていなければならない。一方、秋田大学（秋田県）では、冬学期に英語で授業が行われる。日本語に自信がなくても、日本の他の大学への交換留学を希望する方には、こちらの方が良いかもしれない。学生は取得した単位を APU に移行し、APU の授業料のみを支払うこととなる。

さらに、APU の授業料と交換留学先の大学の授業料の両方を支払うことができるのであれば、APU の提携校の中から留学先を選ぶこともできる。つまり、学生は自分が参加したいコースやプログラムを自由に選ぶことができる。ただし、APU を卒業するという条件も求められる。

2020 年以降、COVID-19 の普及に伴い、新入生が AP ハウスに来ることが困難になり、国際的な環境を享受する機会が失われている。また、自由に旅行ができなくなったことで、多くの交換プログラムが延期や中止になっている。しかし、いくつかのプログラムではオンライン授業で代用しているが、それでは本来の国際的な環境を作ることができない。この問題を解決するために、APU は REACT Multicultural Day やホームステイイベント、Virtual Field Study などのオンライン交流を行っている。また、APU の国際的な雰囲気を楽しんでもらうために、マルチカルチュラル・ワークショップ、ピア・リーダー・トレーニング、GLAD プログラムなどの授業も行っている。

■ 提言

COVID 時代には、ウイルスの社会的影響により、他者との交流が阻害されてきた。現状では交流が難しいことは認識しているが、社会的な距離感や COVID 対策が人付き合いの決め手ではなくなった時に、この次の提案が採用され、実行されることを前提に運営している。COVID の先にある数年後のためのプログラムを提案したいと考え、未来志向のアプローチをとっている。これにより、最初の提案を実行する前に、完璧な計画と調整を行うことができるようになったことが大きなメリットである。

a. ビーチの美化と BBQ

別府エリアの魅力の一つは、至る所にあるビーチである。そこで私たちは、APU と学生団体が主催してビーチクリーンを行い、その後、ビーチでのゲームや食べ物を用意して BBQ を行うというイベントを提案し

たいと考えている。この提案が今回のテーマに合致している理由は、近隣の大学の学生や教員を招待することも提案しているからである。別府にある大学は APU だけではないので、APU の学生の中だけでの交流に限るべきではないだろう。

また、この提案には 4 つの重要なメリットがある。それは、社会奉仕、国際的な学生団体の交流、国内の交流、そしてチームとして一丸となることで、別府の最大の魅力の一つであるビーチが、ここに住む誰もが利用できるように清潔で美しいものにすることで、地域社会に貢献することもできる。さらに、みんなが共通の目標に向かって集まることで、参加者同士の有機的な交流が促進される。そして、最後は FUN−「楽しむ」ことである。ビーチで BBQ をしたり、一緒にゲームをしたりすることで、誰もが心に残る素晴らしい思い出を作り、友情を育み、楽しい時間を過ごすことができる。

食材費や機材費の負担を軽減するために、このイベントのスポンサーを募集することをお勧めする。企業は、目に見えて具体的な効果が得られるこの街での PR などの安価でポジティブな PR をよく使用しているので、私たちのプロジェクトのスポンサーになってくれるだろう。また、地元の新聞社に記事を依頼し、APU が街をきれいにするために先頭に立っていることや、学生たちが別府の特産品を楽しみながらバランスのとれた生活を送っていることを紹介することもできる。記事の中では、この活動に資金を提供してくれるスポンサーも紹介することができる。

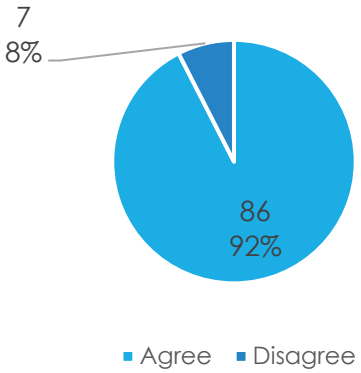
b. ポーラープランジ

カナダが発祥で、アメリカ北部の州で人気があるのがポーラープランジである。これは、真冬に湖や川、海に飛び込んで 1 分間過ごした後、近くの温泉に駆け込むというものだ。別府には美しい海があり、数え切れないほどの温泉があり、誰でも楽しむことができる。我々が提案するのは、1 つまたはいくつかの温泉と一緒にポーラープランジを開催し、その収益の一部を別府市内の慈善活動に役立てることである。例えば、地元の養護施設などの子供たちにホリデーシーズン用のおもちゃを買うことができる。

今回も周辺の大学にも参加してもらい、様々な人たちとの交流を図る。これもまた、アジアではやったことのある人、知っている人がほとんどいない新しい試みである。学生たちが後から振り返って笑い話にできるような、ユニークな体験をしながら、慈善活動にも協力できる。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 2］提言 a, b:「Beach Beautification & BBQ」や「Polar Plunge」などのイベントの開催に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）



「Beach Beautification & BBQ」や「Polar Plunge」などのイベントの開催。 別府の魅力の一つは、ビーチです。そこで私たちは、APU と学生団体が主催してビーチの清掃活動を行い、その後、ビーチでのゲームや食べ物を用意して BBQ を行うというイベントを提案します。この案を「国際・教育交流」のカテゴリーで提案するのは、このイベントでは、近隣大学の学生や教員を招待することも想定しているためです。 さらに、別府には美しい海があり、皆が楽しめる温泉が数えきれないほどあります。 私たちが提案しているのは、1 つあるいは複数の温泉と協力して Polar Plunge を開催し、その収益の一部をここ別府市にある慈善事業に寄付することです。（例えば、冬なので、ホリデーシーズンに地元の児童養護施設の子どもたちにおもちゃを寄付するなど。）

学生の意見　（回答総数?? = ??[日本語] + ??[英語]）

- 地域の人たちとも交流できるのが良い　（同様意見 2+0 件）
- 楽しそう　（同様意見 1+2 件）

V. Counseling and Student Services

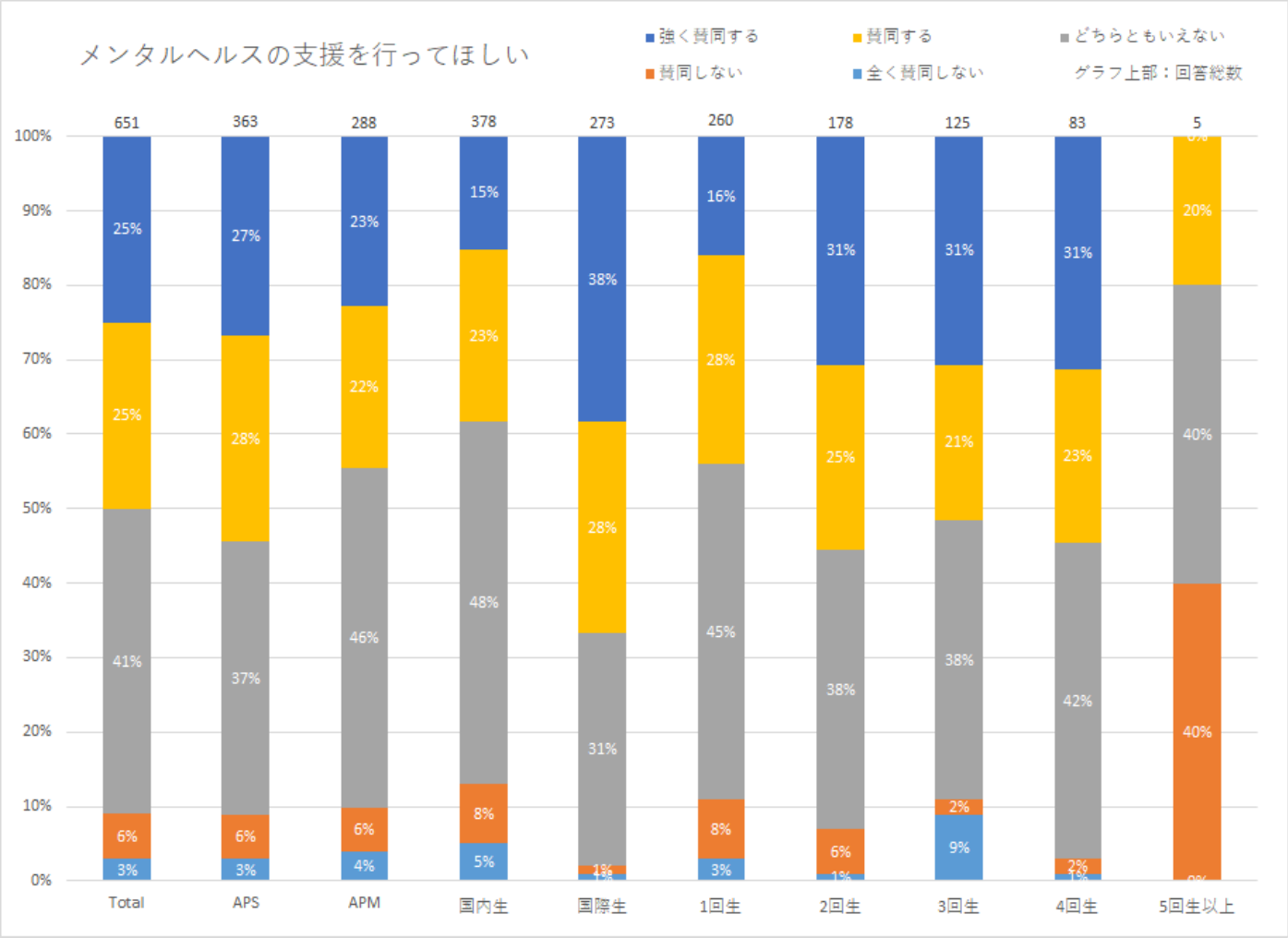
提言 V-1 メンタルヘルスサービス

■ 問題点

1. 学生とカウンセラーとの間に言葉や文化の壁が生じていること
2. カウンセリングルームにおけるメンタルヘルスサービスが不十分であること
3. メンタルサービスを提供する施設の不充実
4. 大学内におけるメンタルヘルスサービスへの意識が低い点

■ データと現状分析

［図 1］「メンタルヘルスの支援を行ってほしい」に対する賛同度（5 段階）（縦軸は%）



「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は全体の 50%である。「国内/国際」それぞれに対する賛同の度合い（5 段階）の回答比率には違いが見られる。「国内」における「賛同する」または「強く賛同する」を合わせた回答率は 38%であるのに対し、「国際」では 66%の回答率であることがわかる。

V. Counseling and Student Services

国際生の方がメンタルヘルスサービスの需要が高いことを考慮すると、「国際交流」「異文化間コミュニケーション」などに焦点をあてることで、どのようなメンタルヘルスサービスが求められているのかを明らかにする。

学生の意見　(回答総数 150 = 68[日本語] + 82[英語])

- 「賛同する」または「強く賛同する」
  - カウンセリングルームには、プロのカウンセラーだけでなく、精神科医や心理学者などの専門家をもっと配置してほしい（同様意見 22 件）
  - カウンセリングサービスの機能性やアクセスを改善してほしい（同様意見 21 件）
  - カウンセリングルームは、留学生のニーズにもっと応えるべきだ（同様意見 12 件）
  - 精神上の問題や学習障害を抱える学生に対して、学業面でのサポートを提供すべき（同様意見 8 件）
  - 先生がピアカウンセラーになるための指導を受けることができるような環境を構築すべき（同様意見 7 件）
  - スチューデントオフィスやカウンセリングルームは、メンタルヘルスへの認識やサポートを促進するためにもっとアプローチをしていかなければならない（同様意見 13 件）

- 「どちらともいえない」
  - メンタルヘルスに関する問題を抱えていない（同様意見 7 件）
  - 個人的には問題を抱えていないが、APU は精神的な問題を抱えている人のためにサービスを提供すべき（同様意見 6 件）
  - 大学が提供するサポートは十分である（同様意見 5 件）
  - 友人や恋人からサポートを受けているので必要ない（同様意見 3 件）
  - サービス自体の存在をもっと学生に認知させるべき（同様意見 2 件）
  - 人によっては、サポートを受けたり、自分のメンタルヘルスの問題を他人と共有したりすることを望んでいない

- 「賛同しない」または「まったく賛同しない」
  - 大学が提供するサポートは十分である（同様意見 3 件）
  - 職員や先生のメンタルヘルスを第 1 に考えるべき（同様意見 1 件）
  - 個人的に問題はないものの、コロナで出会いの機会が少ない 1 回生には必要である（同様意見 1 件）
  - 私は病院からサポートを受けているため、必要ない（同様意見 1 件）
  - 奨学金を受給しているため、メンタルヘルスに関する問題はない（同様意見 1 件）

より詳細なリストとしてのコメント内訳は、こちらのリンク先を参照のこと。

このように、「強く賛同する」または「賛同する」と答えている学生は、カウンセラー・サービスの機能性やアクセスなどに不満を感じている意見が多く見られる。一方で「どちらともいえない」「賛同しない」または「まったく賛同しない」と答えている学生の多くは個人的な感想であり、メンタルヘルスのサービスを必要としている人の視点による意見ではない。

そこで、現在の APU カウンセリングルームの統計と利用情報に焦点を当てる。

施設名	常時職員数	バイト職員の数	週の利用可能曜日数	年間利用可能日数	利用可能時間	年間利用回数	備考
カウンセリングルーム	1	4	5	197	10:00~16:30	2016 年: 656 2017 年: 800 2018 年: 676	常時職員: 管理人 1 人(認定臨床心理士) バイト職員 4 人(認定臨床心理士)

統計から、2016 年から 2018 年までに **600 人以上の学生**がカウンセリングルームを利用していることがわかる。これはメンタルサポートを必要とする学生の数としては決して少なくなく、これらのサービスや施設を利用し始めるための変化を望む学生は一定数存在していることを表している。しかし、4 名のカウンセラーのうち 3 名が日本人で 1 名が中国人である点から、カウンセラーの多様性が充実しているとは言えない。これでは、異なる文化や背景を持つ学生に対応する際、カウンセラーは彼らを理解し、共感することが難しくなる可能性がある。

次に、APU で対応できない場合、別府市内のどこに送られるのかという質問をしたところ、カウンセラーは「**別府市内の精神科病院に送られる**」と答えた。**しかし、この精神科医の中で英語を流暢に話せる人は限られており、留学生にとってはまだ大きな壁となっている。**

また、カウンセラーによると、日本ではメンタルヘルスに悩む人のほとんどが治療ではなく薬を使っているとのことで、特に問題のレベルや深刻さから薬よりも治療を希望する学生にとって、これも制限となる。

次に、APU MeWe の統計と利用状況に焦点を当てる。**APU に設立された学生団体 MeWe の創設者にインタビューを実施**した。MeWe は、オン・オフラインで行われるさまざまな活動を通じて、学生のメンタルヘルスに対する意識を高めることを目的としている。MeWe の活動には、メンタルヘルスに関する情報の投稿、アファメーションの投稿、さまざまなテーマでのオープンディスカッションやウェビナーなどのコミュニティイベントの開催などが挙げられる。2021 年 9 月現在、MeWe の Instagram のフォロワー数は 400 人を超えており、これまでに開催したイベントの中には平均で 10 人前後、最大で 20 人前後の学生が参加したものもある。**留学生と国内の学生の比率は 8：2** である。これは、留学生同士でメンタルヘルスに関するサポートやサービスのニーズが高いことを示す、上記のデータを裏付けるものであると言える。インタビューの中で私たちは MeWe が抱える課題についても尋ねた。創設者は**専門的な支援不足、プロモーション、メンバーのトレーニングの必要性**について述べた。

また、カウンセリングルームや APU MeWe 設立者へのインタビューに加え、APU 学生としてカウンセリングルームの利用や日本でのメンタルヘルス関連の支援を受けた経験を持つ 2 名の学生にインタビューを実施した。

このインタビューで得られた結果の分析に関してはこちらのリンク

■ 提言

APU カウンセリングルームおよび APU MeWe へのヒヤリングを踏まえ、以下を提言します。

a.　国際的なメンタルヘルス機関との連携

大学生のメンタルヘルス問題に精通したスタッフが属する国際カウンセリング・心理学センターのような国際的なメンタルヘルスの団体は、APU と協力してこれらの問題を解決し、日本では珍しい心理療法などのサービスを提供することが可能になる。また、Tell Japan も APU に協力できる団体である。Tell Japan は、20 年以上日本の国際社会に効果的なサポートやカウンセリングサービスを提供してきた、認定・認証された非営利団体である。サービス内容としては、無料電話相談、専門家による対面式の評価や治療、地域全体のプログラムなどがある。よって、大学が生徒に適切なメンタルヘルスサポートを提供するために、これらの組織と協力することを提言する。大学の職員がこれらのサービスを調査し、その妥当性・有効性を証明することで代替的な治療法として学生に提供することが可能となる。

b.　カウンセリングサービスへのアクセス向上

カウンセリングルームは柔軟に対応し、学生が週に予約できるセッションの数を増やすべきである。さらに、精神的な健康状態は予測できないものであるため、予約のプロセスを複雑なものにせず、ウォークイン・セッションにも開放することを提言する。それによって、学生のスケジュールに合わせて夕方の時間帯に営業時間を延長すること・AP ハウスに新しいカウンセリングルームを開設し、1 年生のメンタルヘルスサポートのニーズに応えることが可能となる。

c.　MeWe との協力

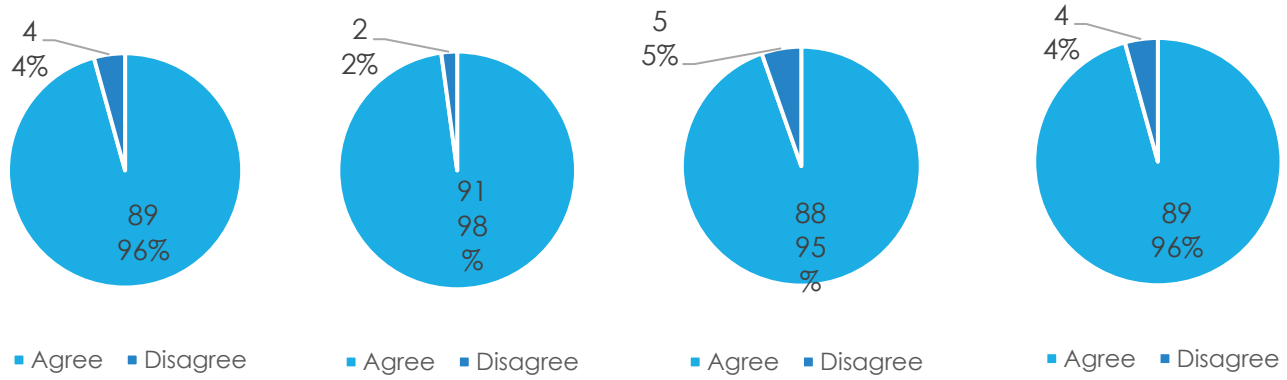
MeWe メンバーのトレーニングとプロモーションのサポートを行うことで、情報共有や、問題を抱えている学生とのオープンな会話の促進（ピアカウンセリングなどの応急処置）を行うことが可能となる。また、MeWe との協力により、メンタルヘルスに関する啓発的なプログラムを企画・実施することも可能となる。MeWe 側にとっても、学生に共通する問題を特定し、担当者に提案することで学生とスタッフの橋渡し役としても機能することや、MeWe では SNS でセッションを宣伝することも可能となり相乗効果が期待できる。

d.　学生のメンタルヘルスチェック

APU では、全学生が年に一度健康診断を受けることが義務付けられているが、最低でもセメスター毎に健康診断を行うことを提言する。健康診断は学生が自分自身の体調の変化に気付くために重要であるからだ。また、健康診断により学生間でメンタルヘルスに関する意識が高まり、解決策や実行の必要性を見出すことも可能である。APU における様々な文化や背景に起因する、メンタルヘルスに対する意識の偏りや無知を解消することも可能となるだろう。

■ 上記の提言に対する追加アンケートの結果と考察

［図 2］提言 a：国際的なメンタルヘルス機関との連携に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）
［図 3］提言 b：カウンセリングサービスのアクセス向上に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）
［図 4］提言 c：MeWe との協力に対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）
［図 5］提言 d：学生のメンタルヘルスチェックに対する「賛成」「反対」の割合（回答者 93 人）
＜円グラフ：左から順に図 2、3、4、5＞



学生の意見　（回答総数 24 ＝ 9［日本語］＋ 15［英語］）

- 「賛同する」または「強く賛同する」 (24 回答)
  - メンタルヘルスは学生生活の重要な側面であり、取り組むべき問題である
  - メンタルヘルス支援は、日本社会だけでなく、国際社会のニーズにも対応すべきである
  - メンタルヘルスのサポートは、学生団体だけでなく、大学の管理者が取り組むべき問題である
  - カウンセリングルームは、言葉や文化の違いにより効果的でない場合があり、学生には別の解決策を提供すべきである

回答の 95%が提言に同意、5%が反対、となった。最も高い同意率（98%）を示したのは、カウンセリングサービスへの容易なアクセスに関する提言 b であり、大学はこれを優先すべきである。 反対率が最も高かったのは、MeWe との連携に関する提言 c で、これはコメントにもあるように、メンタルヘルスは学生だけではなく大学当局が対処すべき問題であるという学生の意見を反映しているのかもしれません。最後に、今回の追加調査では、提言に対して全体的に強い同意が示され、メンタルヘルスに関する学生のサポート強化の必要性が浮き彫りになりました。

2021 年度 学生スタッフ

Position	氏名	APS/APM	セメスター
Project Leaders	ALI Subah Anbar	APS	7
Project Leaders	坂本　涼輔	APS	4
A)Data Collector	UWINEZA Celine	APS	8
A)Data Collector	KARINA Viella Darminto	APS	5
A)Data Collector	KIM Gahyun	APM	5
B)Analyst	波賀　秀斗	APM	6
B)Analyst	LIYANARACHCHI Hiruni Thiranya	APM	5
B)Analyst	THAI Minh Long	APM	7
C)Proposal Editor/Writer	FISCHER Dylan Anthony	APM	3
C)Proposal Editor/Writer	JUSTIN Manual Adhinegara	APM	3
C)Proposal Editor/Writer	河合　李海	APS	6
D)Translator	PHAN Nam Anh	APS	4
D)Translator	塚田　東城	APS	6
E)Result Editor/Writer	佐々木　郁乃	APM	4
E)Result Editor/Writer	ウァード　ウエイン	APM	6
F)Web Designer/Manager	徳田　栞	APS	2

*各役割内における氏名は（日本語をローマ字にして）アルファベット順